

2020 年度 医療科学部 IR 報告書

— 2019 年度 卒業生を対象とした
ディプロマ・ポリシー到達度調査（学生自己評価） —



藤田医科大学 | R推進センター
医療科学部・保健衛生学部 | R分室

2020 年 6 月 2 日

藤田医科大学 I R 推進センター
医療科学部・保健衛生学部 IR 分室

2020 年度 医療科学部 I R 報告書

2019 年度 卒業生を対象とした
ディプロマ・ポリシー到達度調査（学生自己評価）

2020 年度 医療科学部 IR 報告書

「2019 年度 卒業生を対象とした ディプロマ・ポリシー到達度調査（学生自己評価）」について

本学の教育目標を達成するため、教育および学生支援に関する諸データの統合分析と情報提供等を行い、本学の教育活動の充実発展に寄与することを目的として、藤田医科大学 I R（Institutional Research）推進センターが設置されています。今回、下部組織の医療科学部・保健衛生学部 I R 分室では、2019 年度の医療科学部の卒業生を対象とした医療科学部および各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度に関する自己評価アンケートを行いましたので、その集計・分析結果について報告いたします。

2020 年 6 月 2 日

2020 年度 藤田医科大学 I R 推進センター 医療科学部・保健衛生学部 I R 分室
鈴木康司、山田晃司、石川浩章、南 一幸、小林正尚、日比谷 信、武藤晃一、
世古留美、大塚 圭、鈴木めぐみ、井上知重、島向健太

目 次

1. 分析結果の概要	1
2. ディプロマ・ポリシーについて	2
2-1) 学部ディプロマ・ポリシー	2
2-3) 学科ディプロマ・ポリシー	3
3. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度	6
3-1) アンケート調査方法	6
3-2) 調査概要、調査結果および到達度の分析	8
3-2-1) 学部全体としての分析	11
3-2-2) 学科間の比較	11
3-3) 各学科の調査結果および到達度の分析	16
3-3-1) 臨床検査学科	16
3-3-2) 放射線学科	18
3-3-3) 臨床工学科	20
3-3-4) 医療経営情報学科	22
4. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度	24
4-1) アンケート調査方法	24
4-2) 各学科の調査概要、調査結果および到達度の分析	24
4-2-1) 臨床検査学科	24
4-2-2) 放射線学科	28
4-2-3) 臨床工学科	31
4-2-4) 医療経営情報学科	34

1. 分析結果の概要

本学の教育のさらなる質の向上をめざし、学生が実感している学修の到達度を明らかにすることを目的として、2019年度卒業生を対象として医療科学部および所属する各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度について、自己評価アンケート調査を行い、集計・分析を行った。

医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価は、学部全体の集計結果では、8項目の自己評価の平均値はほぼ等しかった。「解決力」に関する項目の自己評価は他の項目と比べ若干低い評価であったものの、すべての設問で「最低水準は修得できた」より高く自己評価した学生がほとんどであった。学科間で比較すると、臨床工学科の自己評価が他の学科より若干高値を示す傾向を認めた。

各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価は、すべての学科で各ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価は、「最低水準は修得できた」以上と回答した学生がほとんどであり、「ある程度修得したが、最低水準には届かない」以下と回答した学生はわずかであった。上述の傾向は、これまでの卒業生とほぼ同様であった。

以上の結果より、すべての学科において、学部および学科のディプロマ・ポリシーの達成度は十分に高く、医療科学部における教育は持続的に質を高く保てている状況であると判断できた。しかし、学部および各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価において、「解決力」に関するディプロマ・ポリシー項目が、他の項目に比べて評価が低い学生の割合が若干多い傾向を認めた。今後も問題解決力を向上させるために必要な教育方法（アクティブラーニング、卒業研究等）の充実やカリキュラムの改善について検討を継続する必要がある。

2. ディプロマ・ポリシーについて

ディプロマ・ポリシー (Diploma Policy) とは、高等教育機関における卒業認定・学位授与に関する方針である。

藤田医科大学では学部レベルと学科レベルにて、学生が卒業する時に最低限身につけていべき知識・理解・思考・判断・興味・関心・態度・技能・表現について具体的にまとめ、これをディプロマ・ポリシーとして設定し、公表している。ディプロマ・ポリシーは、本学の教育に関する質保証に資するために策定される。

2-1) 学部ディプロマ・ポリシー

医療科学部では、学部レベルのディプロマ・ポリシーを策定している。2019 年度卒業生に対する学部ディプロマ・ポリシーについて表 2-1 に示す。

表 2-1. 医療科学部ディプロマ・ポリシー

医療科学部は、臨床検査学、放射線学、臨床工学および医療経営情報学の専門的教育と研究の過程を経て、以下のような能力と素養を身につけた学生に対して学士の称号を与えます。

(知識・理解)

- 1) 医療人としての専門分野の学修内容について知識を修得している。
- 2) 人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけている。

(思考・判断)

- 3) 対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と適確な判断を行えるようにそれぞれの専門領域において、必要な行動を示すことができる。
- 4) 国際的視野に立ち、論理的な思考ができ、疑問を解決する行動をとることができる。

(興味・関心)

- 5) 科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に対応し、生涯を通して自らを高めることができる。

(態度)

- 6) 患者および地域住民の健康の維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任をもった行動をとることができる。

(技能・表現)

- 7) 専門的な技能を、患者もしくは医療従事者に対して適確かつ安全に適用、提供することができる。
 - 8) 患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができる。
-

2-3) 学科ディプロマ・ポリシー

医療科学部の各学科においてもディプロマ・ポリシーを設定し、教育の質保証に努めている。医療科学部の臨床検査学科のディプロマ・ポリシーを表2-2、放射線学科を表2-3、臨床工学科を表2-4、医療経営情報学科を表2-5に示す。

表2-2. 臨床検査学科ディプロマ・ポリシー

藤田医科大学医療科学部のディプロマ・ポリシーに基づき、臨床検査学科に4年以上在学し、授業科目より卒業要件を満たす単位を修得したうえ、卒業試験を合格した学生に『学士（保健衛生学）』の学位を授与します。

卒業試験は下記の能力が身につけていることを総合的に判断するものです。よって、臨床検査学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得していることになります。

- 1) 幅広い教養を身に付け、臨床検査を実践するために必要な知識と技能を有する。
 - 2) 生命の尊さを深く認識し、医療人として高い倫理感と強い責任感を有し、謙虚で誠実に医療を実践することができる。
 - 3) 医療職種の専門性および役割を理解し、チーム医療の一員としての自覚を有し、患者中心の専門職連携を実践することができる。
 - 4) 地域医療の重要性を理解し、医学・臨床検査学を通じて地域社会と連携した医療・福祉を実践し、地域社会に貢献することができる。
 - 5) 常に進歩し続ける医学・臨床検査に関心を有し、生涯にわたり自ら成長することができる。
 - 6) 研究的探究心を失うことなく、常に向上心をもち、国際的視野を持ってグローバルに活躍する意志と積極性を有する。
 - 7) 科学的根拠に基づき、様々な医学・臨床検査学に関する問題や課題の解決に向けた思考や判断能力を有する。
-

表2-3. 放射線学科ディプロマ・ポリシー

藤田医科大学医療科学部のディプロマ・ポリシーに基づき、放射線学科に4年以上在学し、授業科目より卒業要件を満たす単位を修得したうえ、卒業試験を合格した学生に『学士（診療放射線技術学）』の学位を授与します。

卒業試験は以下の各項目について、その修得を総合的に判断するものです。したがって、放射線学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得していることになります。

- 1) 医療専門職に相応しい倫理観や他者を思いやる心遣い、および洗練された礼節を身につけている。
 - 2) チーム医療の一員として他の医療専門職と協働して医療を担う責任感と協調性、優れたコミュニケーション能力を有する。
 - 3) 診療放射線技師が担う診療画像検査業務および画像診断支援業務、放射線治療支援業務、放射線管理業務に幅広く対応できる高度な知識と技術を有する。
 - 4) 診療放射線技術科学に関する論理的な課題解決思考をもち、卓越した専門性を発揮して放射
-

線診療に携わることができる。

- 5) 医療機関のみならず、医療機器メーカー等の企業においても、質の高い製品やサービスの開発・供給に貢献できる能力を有する。
 - 6) 医学・医療科学に関する課題解決思考とリサーチマインドを兼ね備え、診療放射線技術科学のグローバルズムに対応できる国際的視野を有する。
-

表 2－4. 臨床工学科ディプロマ・ポリシー

藤田医科大学医療科学部のディプロマ・ポリシーに基づき、臨床工学科に 4 年以上在学し、授業科目により卒業要件を満たす単位を修得したうえ、卒業試験を合格した学生に『学士（臨床工学）』の学位を授与します。

卒業試験は、下記の能力が身につけていることを総合的に判断するものです。よって、臨床工学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得している事になります。

- 1) 臨床工学技術領域に従事するために必要な知識・技能を身につけている。
 - 2) 臨床工学技士国家試験に合格できる学力を身につけている。
 - 3) 安全な医療を行うために医学知識と工学知識を統合して判断できる。
 - 4) 国際社会のニーズにも対応し、生涯学び続ける姿勢を堅持できる。
 - 5) 高い倫理観を基盤とした豊かな人間性を身につけ、他の医療職と協働してチーム医療に貢献しようとする意思をもつことができる。
 - 6) 臨床工学技士に相応しい高い専門性と研究能力を備え、医学の進歩と地域・社会福祉の向上に寄与することを目的に、未来を指し示すリーダー力を備えている。
-

表 2－5. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー

藤田医科大学医療科学部のディプロマ・ポリシーに基づき、医療経営情報学科に 4 年以上在学し、授業科目より卒業要件を満たす単位を修得したうえ、卒業試験を合格した学生に『学士（医療経営情報学）』の学位を授与します。

卒業試験は下記の能力が身につけていることを総合的に判断するものです。よって、医療経営情報学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得していることになります。

- 1) 医療の質向上に貢献することができる情報分析能力やマネジメント能力を身につけている。
 - 2) 医療人としてふさわしい高い倫理観を身につけ、チーム医療の一員として問題解決にあたるためのコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につけている。
 - 3) 社会の変化や医療の進歩に対応して自らの専門性を発揮できるよう生涯学習を続ける意欲を身につけている。
 - 4) 医療経営情報学を修めた学生として、以下の専門性を身につけている。
 - (1) 診療報酬請求事務に関する知識と基礎的能力を身につけている。
 - (2) 診療情報管理士認定試験に合格できる知識と技能の水準に達している。
-

-
- (3) 医療情報技師能力検定試験に合格できる知識と技能の水準に達している。
 - (4) 経営・管理に関する知識を医療に応用する基礎的能力を身につけている。
-

3. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度

3-1) アンケート調査方法

医療科学部の2019年度4年生を対象として、医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度を、学生自身に評価させるアンケート調査を実施した。アンケート調査法はマークシート式の調査票へ記入させる方式とし、医療科学部ディプロマ・ポリシーの各項目（計8項目）を設問として、それに対する自らの到達度を6段階で自己評価させた。

アンケート調査は、2019年度4年生が卒業する前の2019年1～2月中に各学科の事情に合わせ、学生に対して一斉に記入させることが可能な日程にて実施した。

アンケート調査項目である医療科学部ディプロマ・ポリシーを表3-1、達成度の6段階の評定尺度を表3-2に示す。

表3-1. アンケート調査の設問項目：医療科学部ディプロマ・ポリシー

DP1 (専門知識)	医療人としての専門分野の学修内容について知識が修得できましたか。
DP2 (倫理教養)	人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養が身につきましたか。
DP3 (科学行動)	対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と的確な判断を行えるようにそれぞれの専門領域において、必要な行動を示すことができるようになりましたか。
DP4 (解決力)	国際的視野に立ち、論理的な思考ができ、疑問を解決する行動をとることができるようになりましたか。
DP5 (生涯学習)	科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に対応し、生涯を通して自らを高めることができるようになりましたか。
DP6 (責任感)	患者および住民の健康の維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任をもった行動をとることができるようになりましたか。
DP7 (専門技能)	専門的な技能を、患者もしくは医療従事者に対して的確かつ安全に適用することができるようになりましたか。
DP8 (コミュカ)	患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができましたか。

表 3－2. アンケート調査に用いた到達度の評定尺度（6 段階）

6：完全に修得できた
5：概ね修得できた
4：最低水準は修得できた
3：ある程度修得したが、最低水準には届かない
2：十分に修得できていない
1：全く修得できていない

3-2) 調査概要、調査結果および到達度の分析

2019 年度医療科学部 4 年生を対象とした医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価について、アンケート調査（卒業生 263 名中 262 件：回収率 99.6%）の回答の度数分布を表 3-3 に示す。学部全体としての各設問に対する評価尺度毎の回答結果のヒストグラムを図 3-1 に示す。各設問に対する回答の割合を図 3-2 に示す。

表 3-3. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価アンケート結果
度数分布

DP1 (専門知識)						DP5 (生涯学習)					
学部	検査	放射	臨工	医経		学部	検査	放射	臨工	医経	
6	41	15	6	15	5	6	40	17	5	13	5
5	144	73	35	22	14	5	115	50	29	22	14
4	66	23	19	11	13	4	90	41	26	11	12
3	11	2	3	4	2	3	17	5	3	6	3
2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0

DP2 (倫理教養)						DP6 (責任感)					
学部	検査	放射	臨工	医経		学部	検査	放射	臨工	医経	
6	52	18	10	17	7	6	47	16	8	14	9
5	138	74	27	24	13	5	128	67	27	20	14
4	62	19	24	7	12	4	76	28	25	14	9
3	10	2	2	4	2	3	11	2	3	4	2
2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0

DP3 (科学行動)						DP7 (専門技能)					
学部	検査	放射	臨工	医経		学部	検査	放射	臨工	医経	
6	30	8	5	14	3	6	34	9	7	14	4
5	122	58	29	19	16	5	117	55	27	21	14
4	94	43	25	15	11	4	94	43	25	13	13
3	15	4	4	4	3	3	17	6	4	4	3
2	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0

DP4 (解決力)						DP8 (コミュ力)					
学部	検査	放射	臨工	医経		学部	検査	放射	臨工	医経	
6	22	7	5	8	2	6	53	24	6	16	7
5	92	40	17	23	12	5	123	56	29	26	12
4	116	54	32	16	14	4	75	31	26	6	12
3	28	11	8	4	5	3	11	2	2	4	3
2	4	1	1	1	1	2	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0

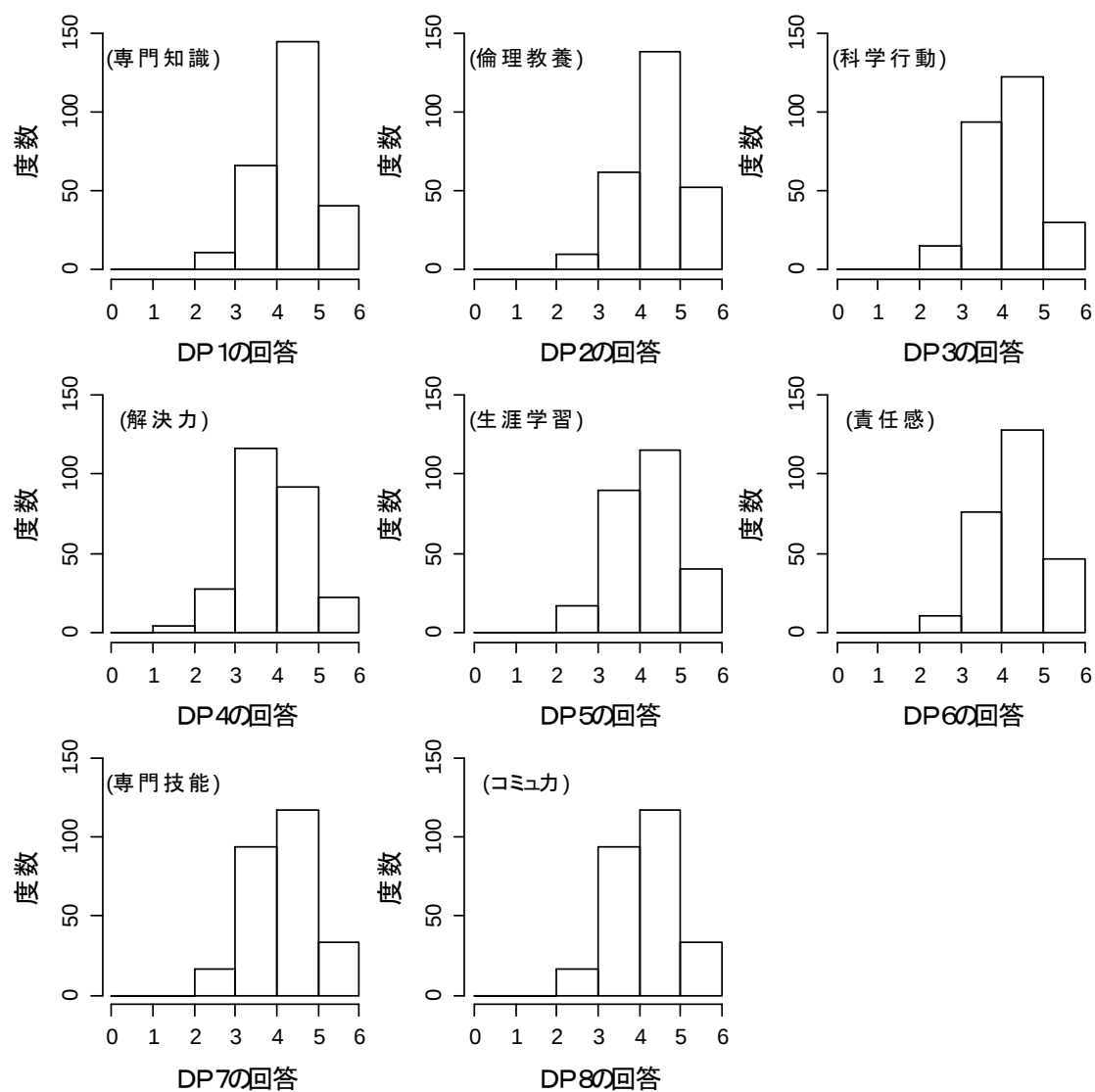


図3-1. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 学部全体の回答分布

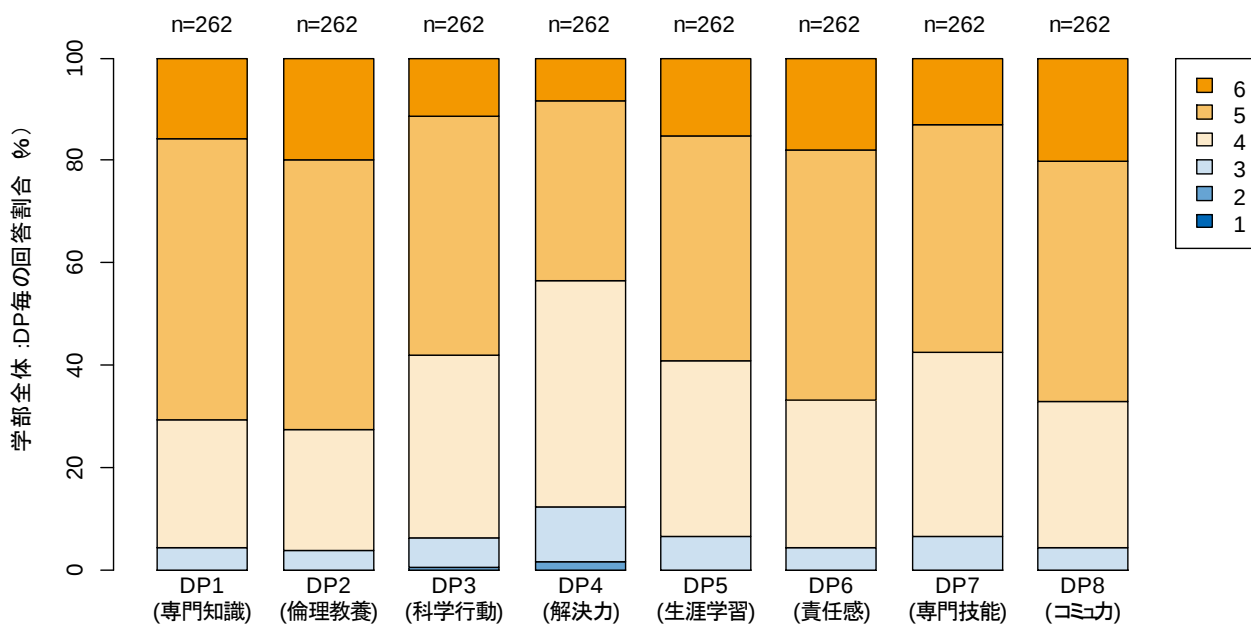


図3-2. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 設問毎の回答割合

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行う。回答結果について、学部全体および学科ごとの平均値、標本標準偏差、中央値、最大値、最小値を表3-4に示す。各ディプロマ・ポリシー項目（以下、DP1～DP8）について、学部全体の回答の平均値をレーダーチャートとして図3-3に示す。

表3-4. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 基本統計量

DP1 (専門知識)						DP5 (生涯学習)					
学部	検査	放射	臨工	医経		学部	検査	放射	臨工	医経	
平均値	4.82	4.89	4.70	4.92	4.65	平均値	4.68	4.70	4.57	4.81	4.62
標本SD	0.74	0.63	0.70	0.89	0.79	標本SD	0.81	0.77	0.70	0.93	0.83
中央値	5	5	5	5	5	中央値	5	5	5	5	5
最大値	6	6	6	6	6	最大値	6	6	6	6	6
最小値	3	3	3	3	3	最小値	3	3	3	3	3
n	262	113	63	52	34	n	262	113	63	52	34

DP2 (倫理教養)						DP6 (責任感)					
学部	検査	放射	臨工	医経		学部	検査	放射	臨工	医経	
平均値	4.89	4.96	4.71	5.04	4.74	平均値	4.81	4.86	4.63	4.85	4.88
標本SD	0.76	0.63	0.76	0.87	0.84	標本SD	0.77	0.66	0.76	0.90	0.85
中央値	5	5	5	5	5	中央値	5	5	5	5	5
最大値	6	6	6	6	6	最大値	6	6	6	6	6
最小値	3	3	3	3	3	最小値	3	3	3	3	3
n	262	113	63	52	34	n	262	113	63	52	34

DP3 (科学行動)						DP7 (専門技能)					
学部	検査	放射	臨工	医経		学部	検査	放射	臨工	医経	
平均値	4.63	4.62	4.56	4.83	4.50	平均値	4.64	4.59	4.59	4.87	4.56
標本SD	0.77	0.67	0.72	0.91	0.87	標本SD	0.79	0.71	0.76	0.89	0.80
中央値	5	5	5	5	5	中央値	5	5	5	5	5
最大値	6	6	6	6	6	最大値	6	6	6	6	6
最小値	2	3	3	3	2	最小値	3	3	3	3	3
n	262	113	63	52	34	n	262	113	63	52	34

DP4 (解決力)						DP8 (コミュ力)					
学部	検査	放射	臨工	医経		学部	検査	放射	臨工	医経	
平均値	4.38	4.36	4.27	4.63	4.26	平均値	4.83	4.90	4.62	5.04	4.68
標本SD	0.84	0.77	0.83	0.89	0.87	標本SD	0.79	0.74	0.69	0.85	0.89
中央値	4	4	4	5	4	中央値	5	5	5	5	5
最大値	6	6	6	6	6	最大値	6	6	6	6	6
最小値	2	2	2	2	2	最小値	3	3	3	3	3
n	262	113	63	52	34	n	262	113	63	52	34

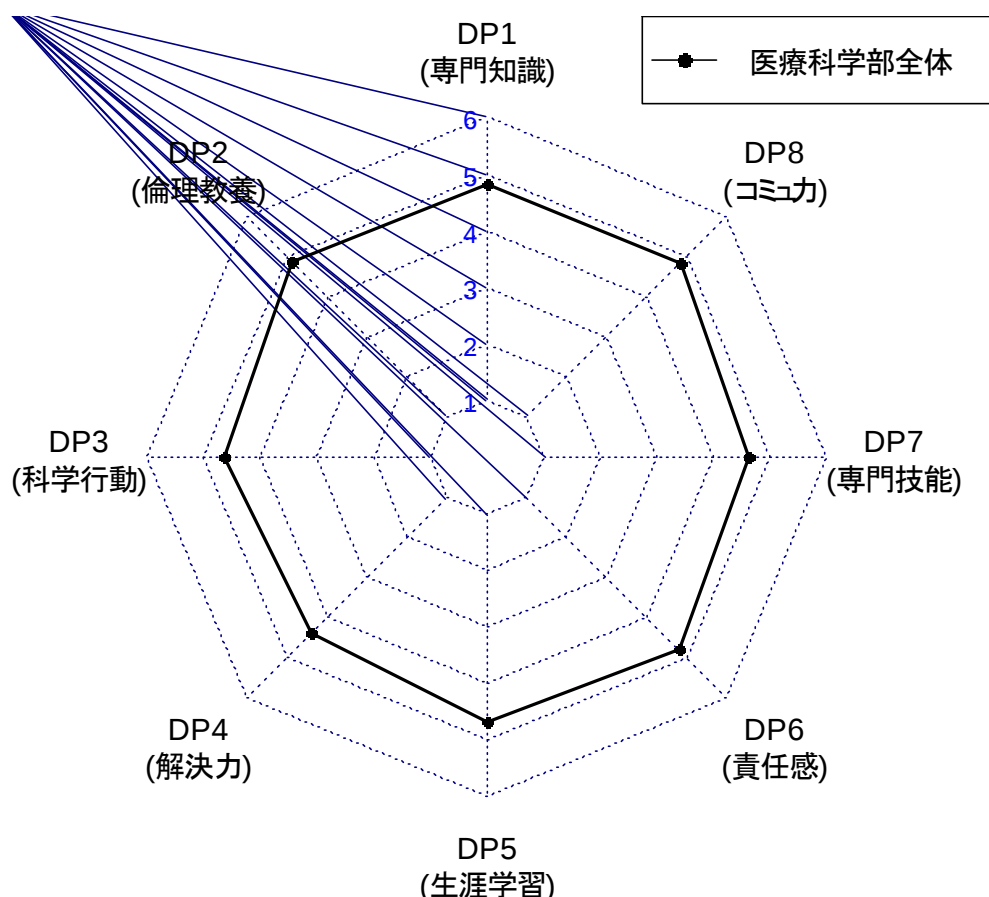


図 3-3. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 評定値の平均値

3-2-1) 学部全体としての分析

2019 年度 4 年生の医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価の平均値は 8 項目でほぼ等しく、DP4 (解決力) の 4.38 ± 0.84 から、DP2 (倫理教養) の 4.89 ± 0.76 の範囲となった。中央値は 7 項目で「5 : 概ね修得できた」となり、DP4 (解決力) のみ「4. 最低水準は修得できた」と若干低い値となった。到達度の自己評価が「2 : 十分に修得できていない」以下の回答は全回答中の 0.24% (5/2,096 件) と極少数であり、「4 : 最低水準は修得できた」以上の回答は全回答中の 94.0% (1,971/2,096 件) と、卒業時の到達点として定めたディプロマ・ポリシーについて「最低水準は修得できた」と自己評価する学生が大多数を占めた。

2018 年度 4 年生の同調査においては、DP1～DP7 の中央値は「5 : 概ね修得できた」、「4 : 最低水準は修得できた」以上と回答した学生は 92.5% (1,856/2,006 件)、「2 : 十分に修得できていない」以下と回答した学生は 1.50% (30/2,006 件) であった。2018 年度と 2019 年度の調査を比較すると、2019 年度 4 年生の自己評価は 2018 年度 4 年生の自己評価とほぼ同様であったが、絶対数はわずかであるが「2 : 十分に修得できていない」以下と回答する学生数の割合を 1/6 と大きく減少させることができた。

3-2-2) 学科間の比較

医療科学部ディプロマ・ポリシーの 8 項目について、項目ごとに回答された評定値の割合

を学科間で比較したグラフを図3-4に示す。

DP1～DP8における回答された評定値は、4学科ともにほぼ同様の傾向を示していた。若干ではあるが、臨床工学科は他学科に比べ「5：概ね修得できた」以上の評定値を回答する率が高い傾向を示した。

医療科学部ディプロマ・ポリシーのDP1項からDP8項目について、学科間で回答された評定値の平均値を比較するグラフを図3-5から図3-12に示す。臨床工学科はDP6（責任感）以外の全てのDP項目で、若干ではあるが他学科と比べ高い値を示した。

医療科学部ディプロマ・ポリシーの各8項目について学科間で比較すると、学部平均に比べ若干ではあるが臨床工学科の自己評価が高く、その他の学科は学部平均に近い値を示した。

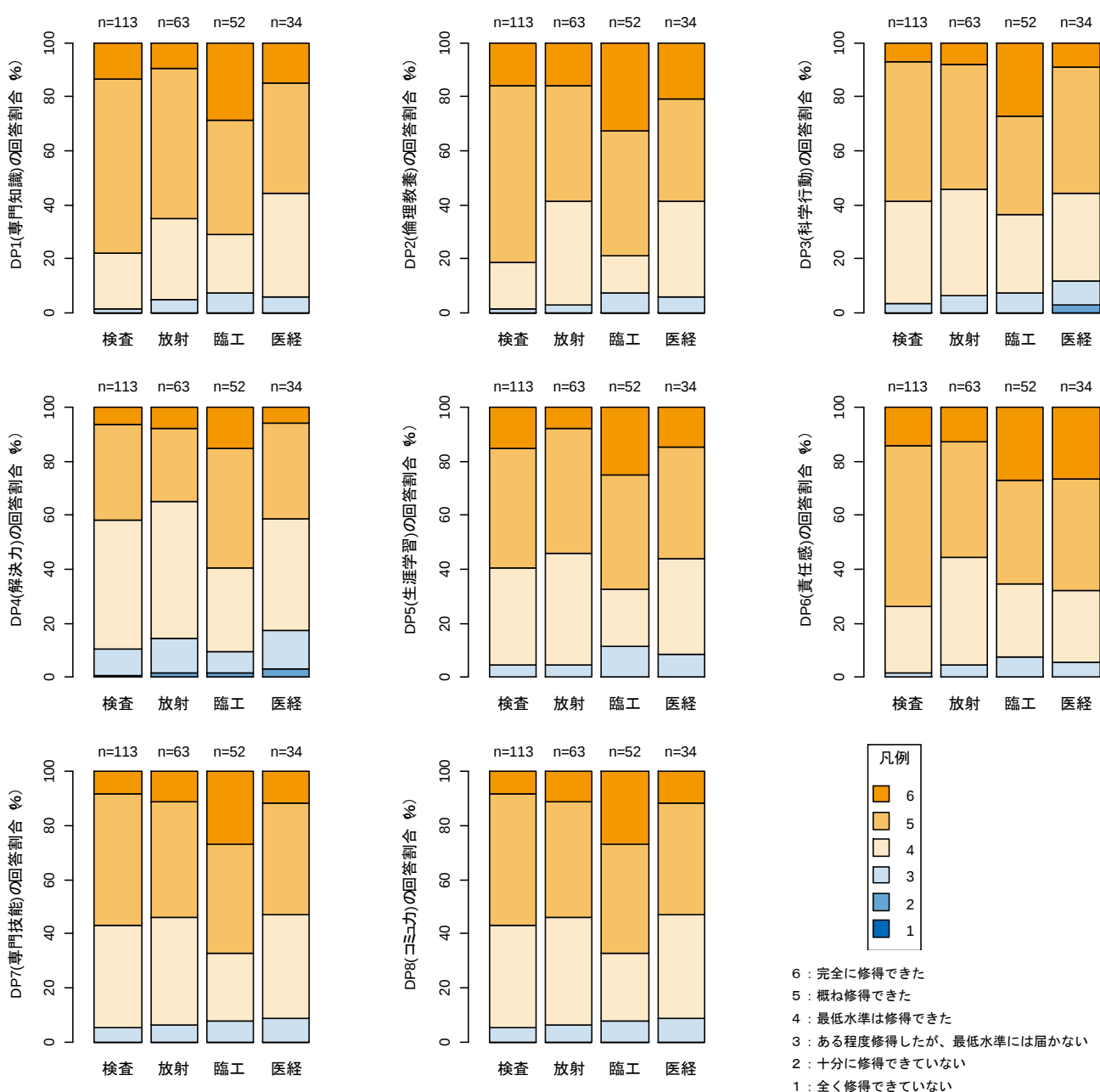


図3-4. 医療科学部ディプロマ・ポリシー自己評価 回答割合の学科間比較 (割合%)

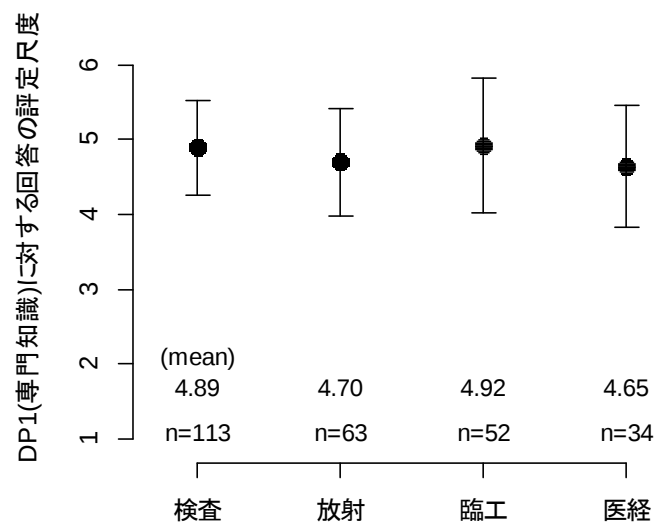


図 3－5. DP1（専門知識）に対する回答の平均値の学科間比較

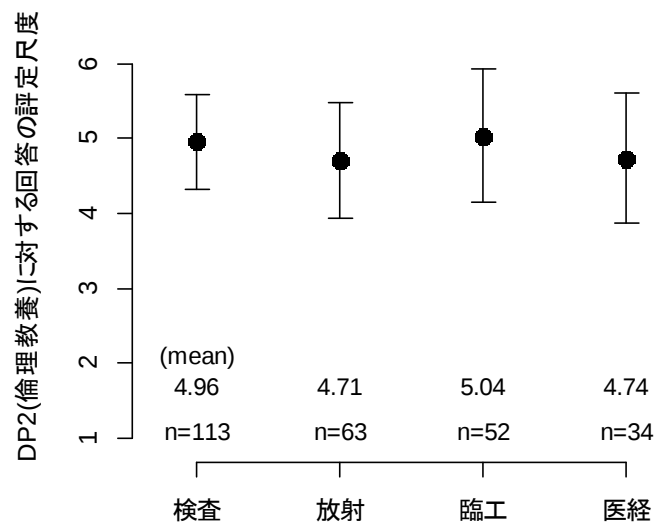


図 3－6. DP2（倫理教養）に対する回答の平均値の学科間比較

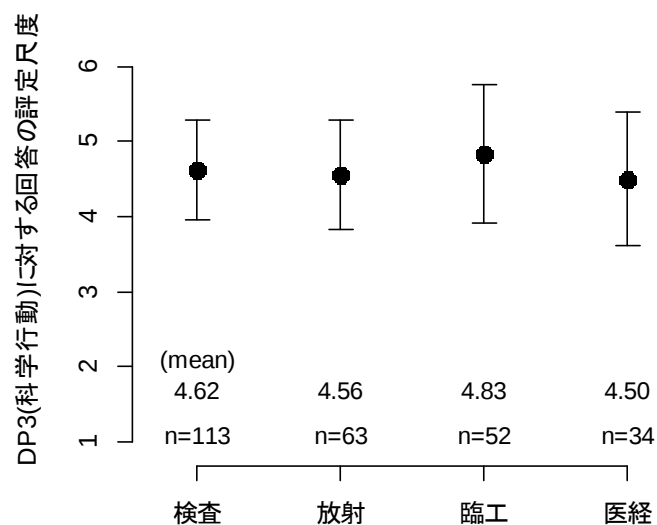


図 3－7. DP3（科学行動）に対する回答の平均値の学科間比較

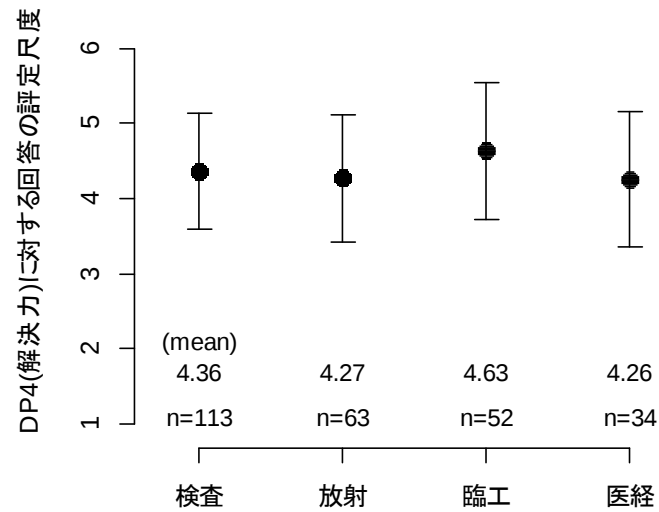


図 3－8. DP4（解決力）に対する回答の平均値の学科間比較

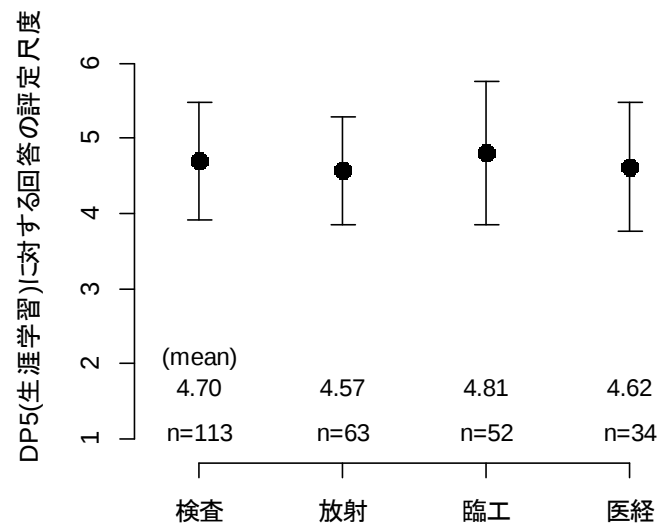


図 3－9. DP5（生涯学習）に対する回答の平均値の学科間比較

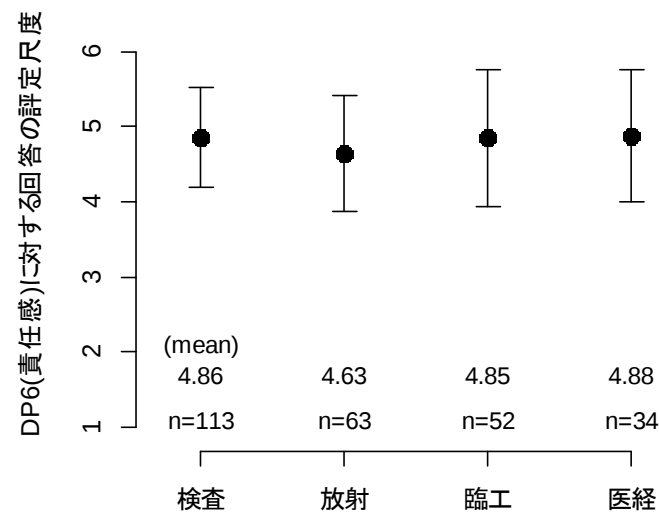


図 3－10. DP6（責任感）に対する回答の平均値の学科間比較

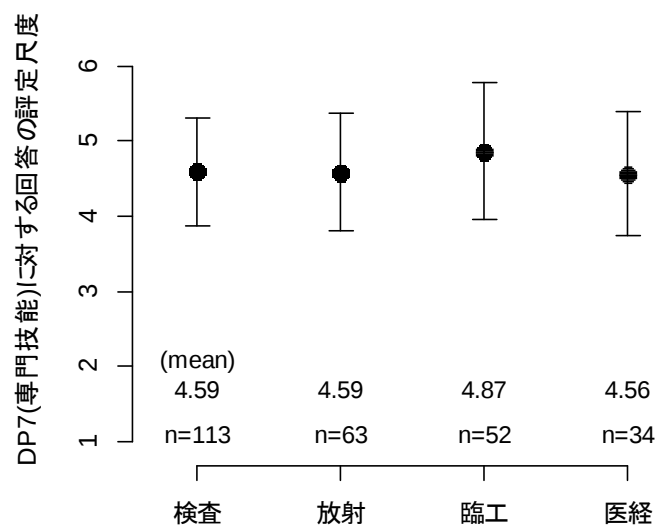


図 3－11. DP7（専門技能）に対する回答の平均値の学科間比較

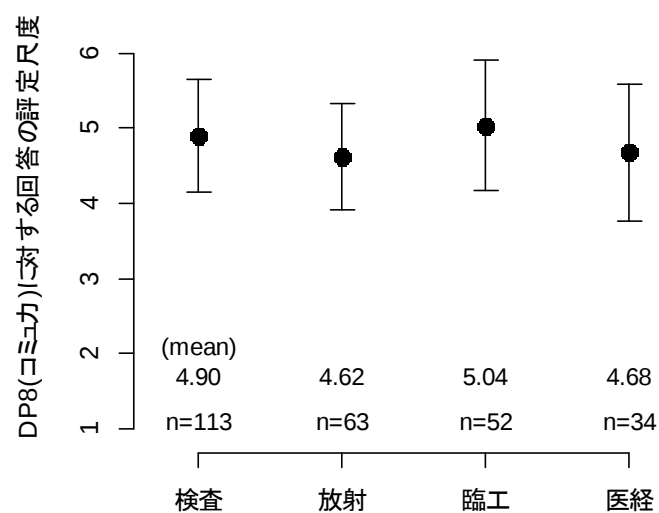


図 3－12. DP8（コミュニケーション）に対する回答の平均値の学科間比較

3-3) 各学科の調査結果および到達度の分析

医療科学部ディプロマ・ポリシーの8項目について、学科ごとに調査結果の概要と到達度の分析を示す。

3-3-1) 臨床検査学科

アンケート調査のDP1～DP8に対する回答結果（卒業生 113 名中 113 件：回収率 100%）のヒストグラムを図3-13、DP項目毎の回答割合を図3-14に示す。DP1～DP8について、学部全体の回答の平均値と臨床検査学科の回答の平均値を比較するレーダーチャートを図3-15に示す。

全てのDP項目で評定値の平均は学部全体とほぼ同一の値であった（学部平均値との差：-0.05～0.07、平均：0.03）。学部平均値との差が最も大きかったDP項目はDP1（専門知識）で、学部平均より0.07高い値となった。

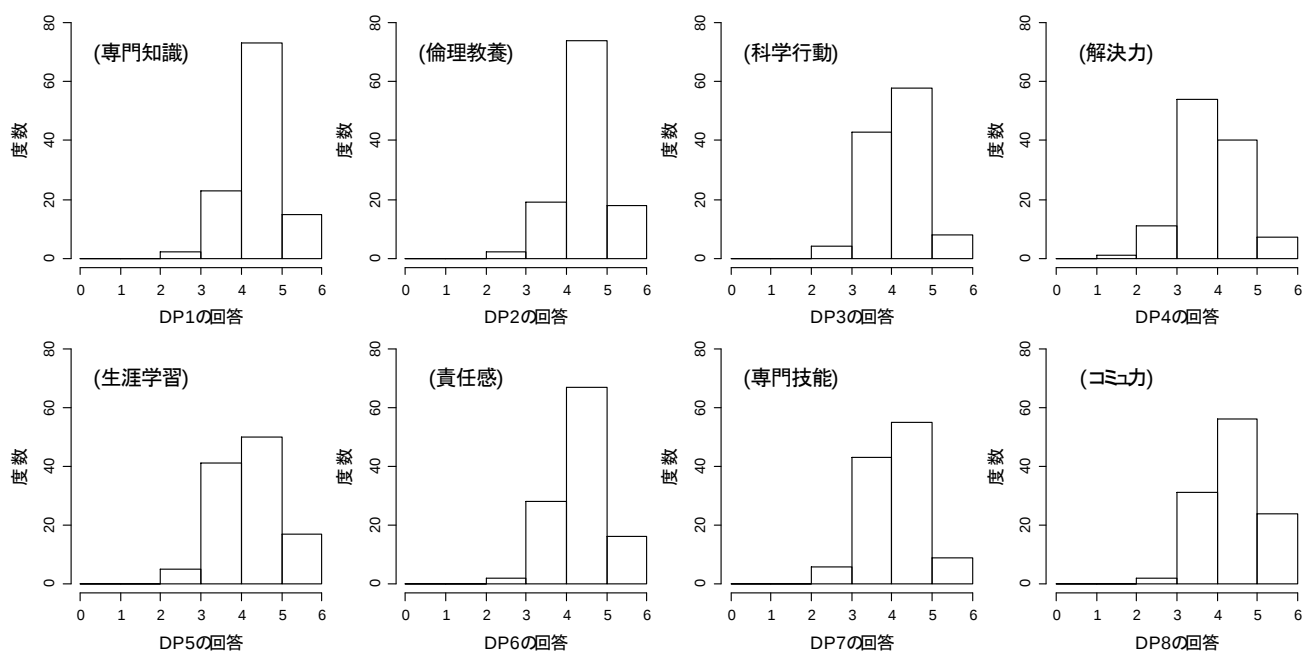


図3-13. 臨床検査学科の回答分布

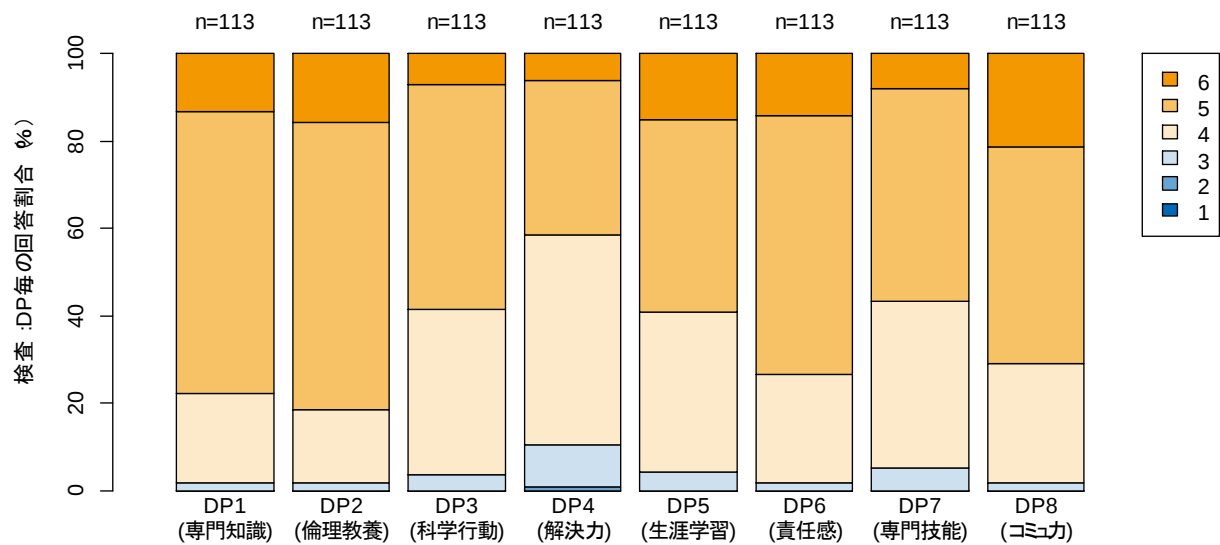


図 3-14. 臨床検査学科の医療科学ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果
設問毎の回答割合

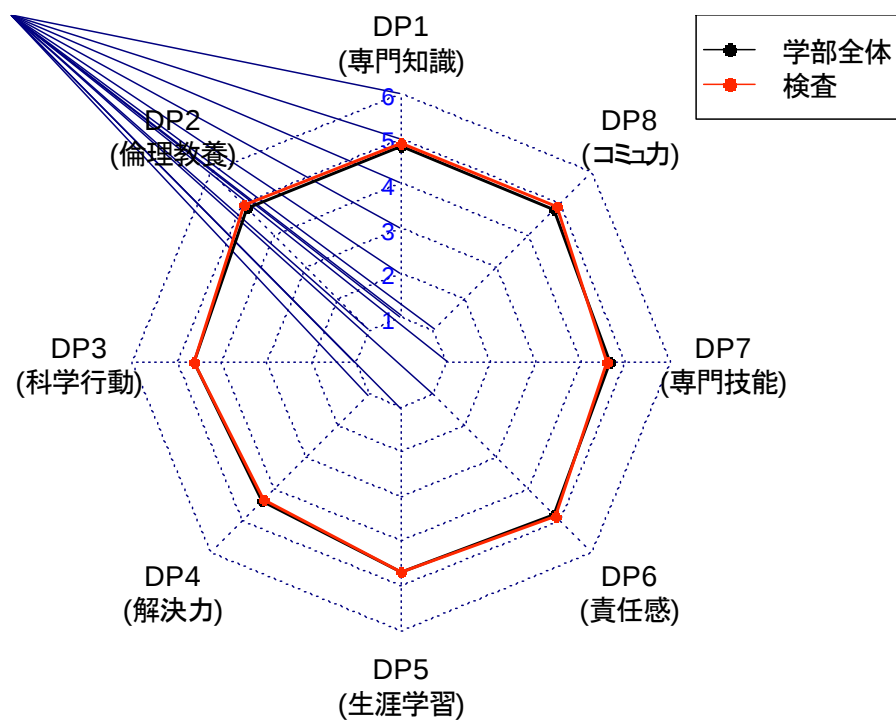


図 3-15. 回答結果の臨床検査学科と学部全体との比較（平均値）

3-3-2) 放射線学科

アンケート調査のDP1～DP8 に対する回答結果（卒業生 63 名中 63 件：回収率 100%）のヒストグラムを図 3-16、DP 項目毎の回答割合を図 3-17 に示す。DP1～DP8 について、学部全体の回答の平均値と放射線学科の回答の平均値を比較するレーダーチャートを図 3-18 に示す。

全ての DP 項目で評定値の平均は学部全体とほぼ同一の値であったが、より低い値（学部平均値との差：-0.21～-0.05、平均：-0.13）を示した。学部平均値との差が最も差が大きかった DP 項目は DP8（コミュカ）で、学部平均より -0.21 低い値となった。

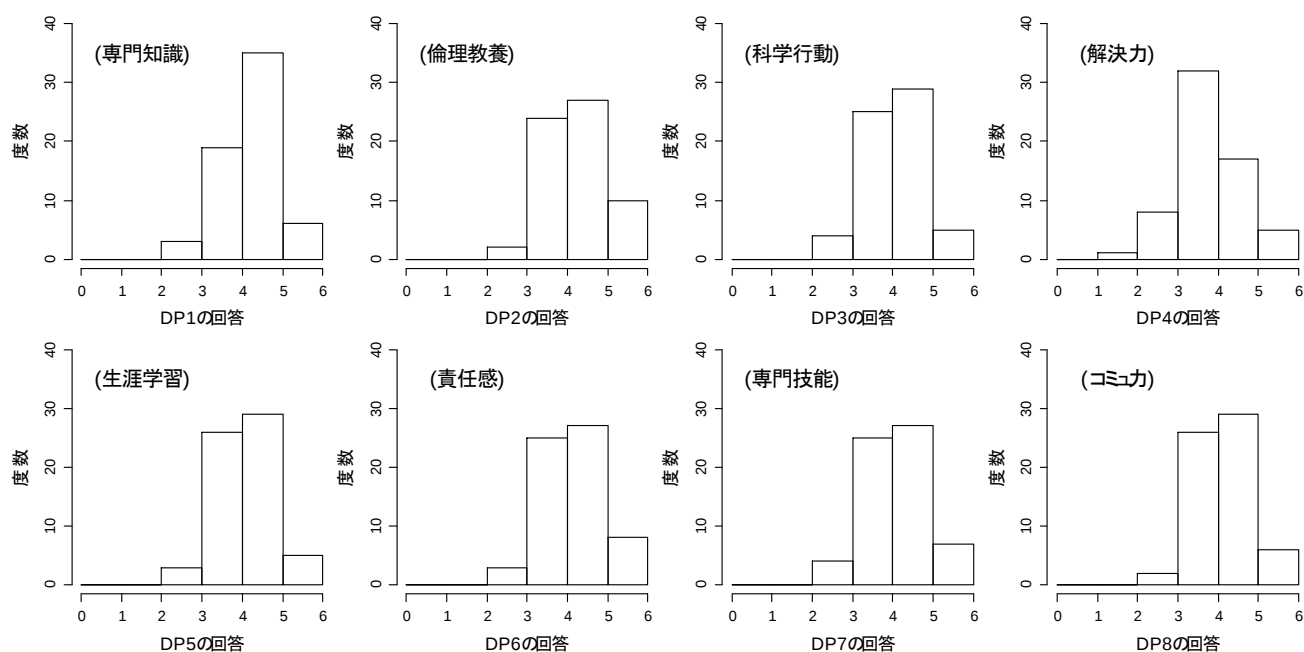


図 3-16. 放射線学科の回答分布

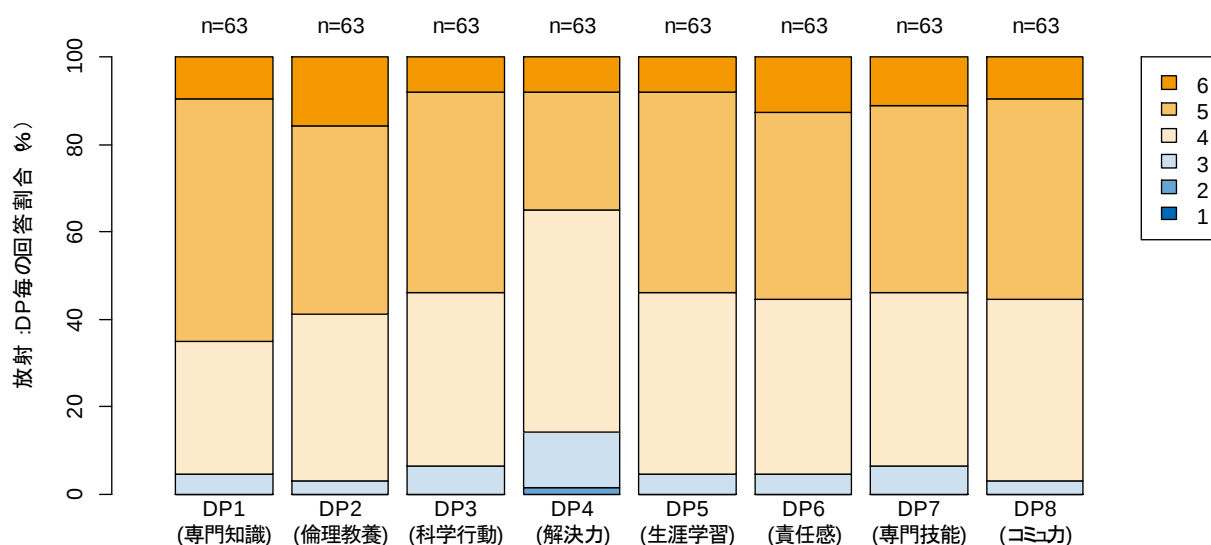


図 3-17. 放射線学科の医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果
DP 毎の回答割合

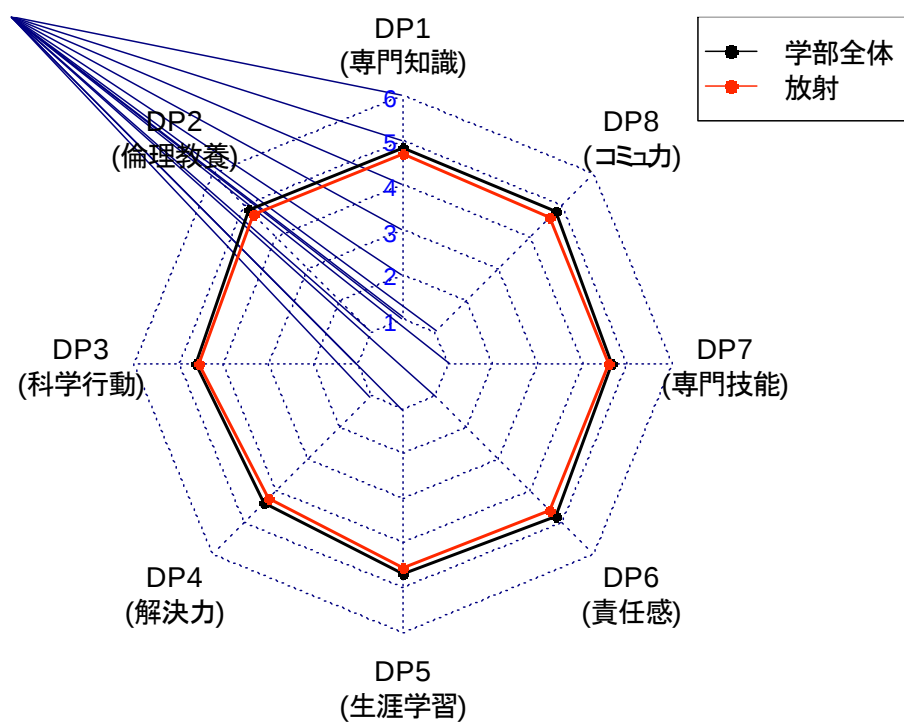


図 3 - 18. 回答結果の放射線学科と学部全体との比較（平均値）

3-3-3) 臨床工学科

アンケート調査のDP1～DP8に対する回答結果（卒業生 53 名中 52 件：回収率 98.1%）のヒストグラムを図 3-19、DP 項目毎の回答割合を図 3-20 に示す。DP1～DP8 について、学部全体の回答の平均値と臨床工学科の回答の平均値を比較するレーダーチャートを図 3-21 に示す。

全ての DP 項目で評定値の平均は学部全体とほぼ同一の値であったが、すべての DP 項目でより高い値（学部平均値との差：0.04～0.25、平均：0.16）を示した。学部平均値との差が最も差が大きかった DP 項目は DP4（解決力）で、学部平均より 0.25 高い値となった。

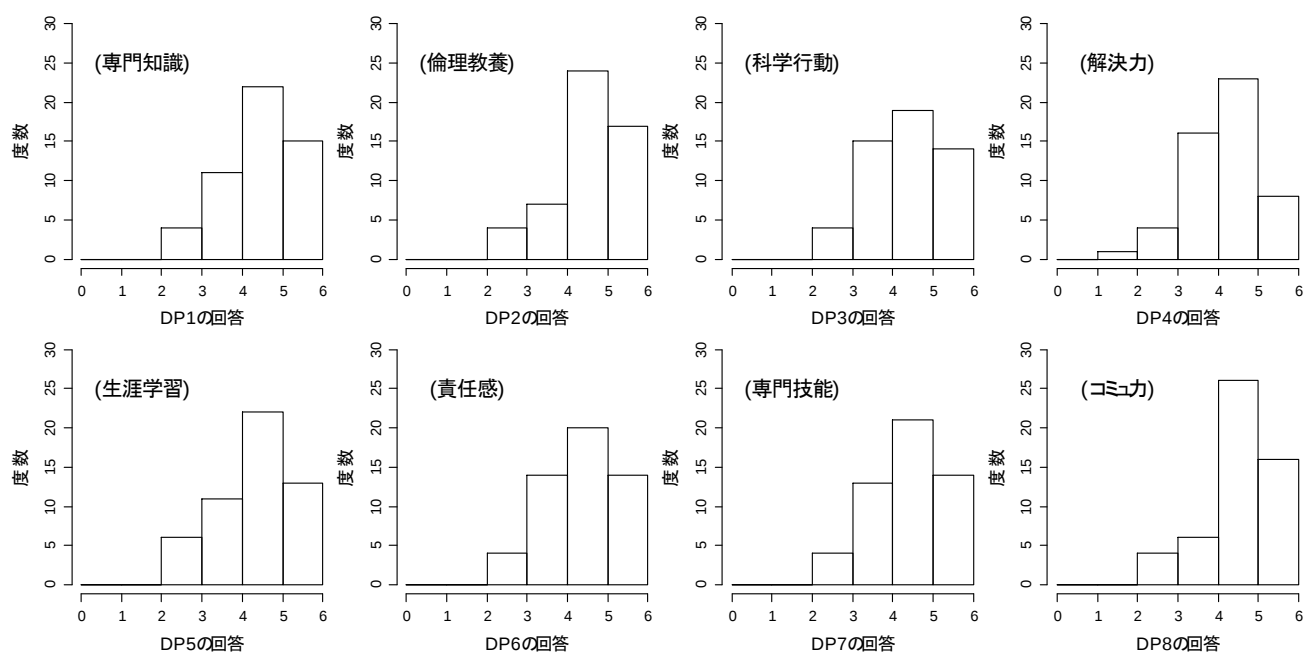


図 3-19. 臨床工学科の回答分布

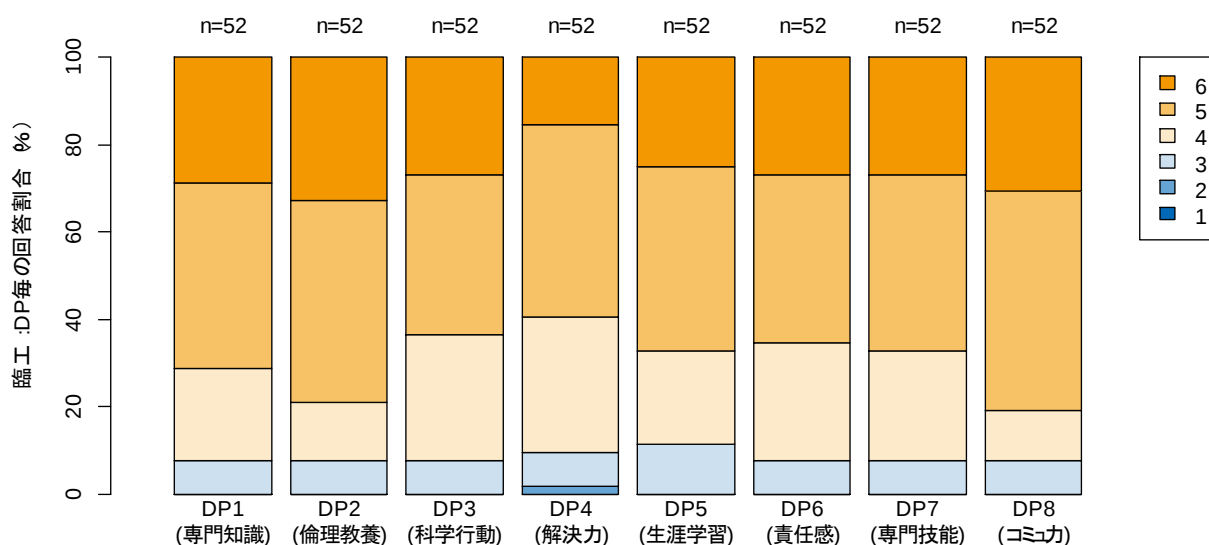


図 3-20. 臨床工学科の医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果
DP 毎の回答割合

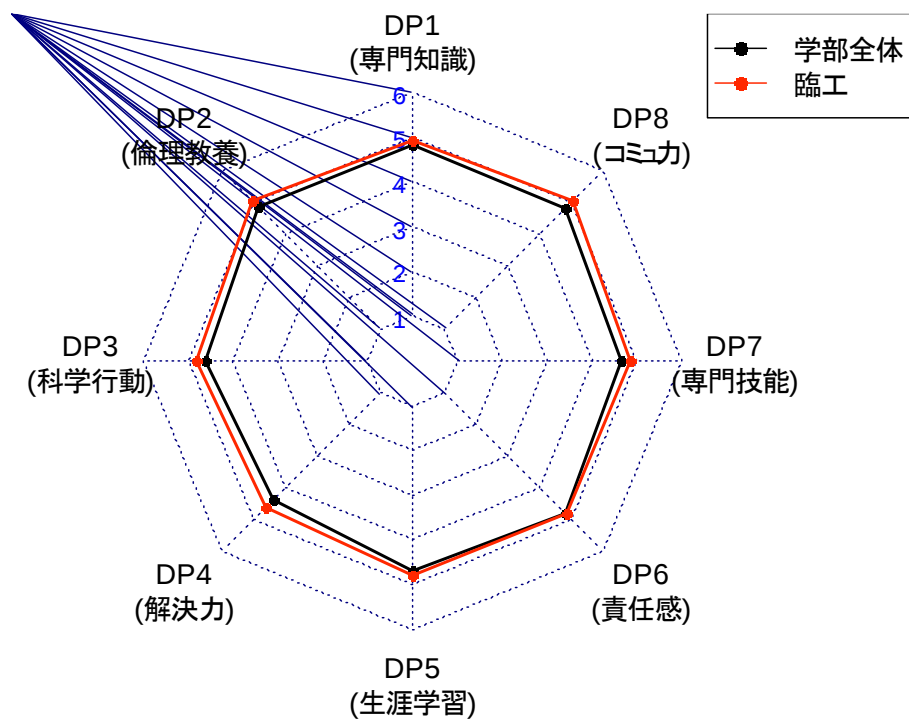


図 3 - 21. 回答結果の臨床工学科と学部全体との比較（平均値）

3-3-4) 医療経営情報学科

アンケート調査の DP1～DP8 に対する回答結果（卒業生 34 名中 34 件：回収率 100%）のヒストグラムを図 3-22、DP 項目毎の回答割合を図 3-23 に示す。DP1～DP8 について、学部全体の回答の平均値と医療経営情報学科の回答の平均値を比較するレーダーチャートを図 3-24 に示す。

全ての DP 項目で評定値の平均は学部全体とほぼ同一の値であったが、DP6（責任感）以外はすべてより低い値（学部平均値との差： $-0.17 \sim 0.07$ 、平均： -0.10 ）を示した。学部平均値との差が最も大きかった DP 項目は DP1（専門知識）で、学部平均より -0.17 低い値となった。

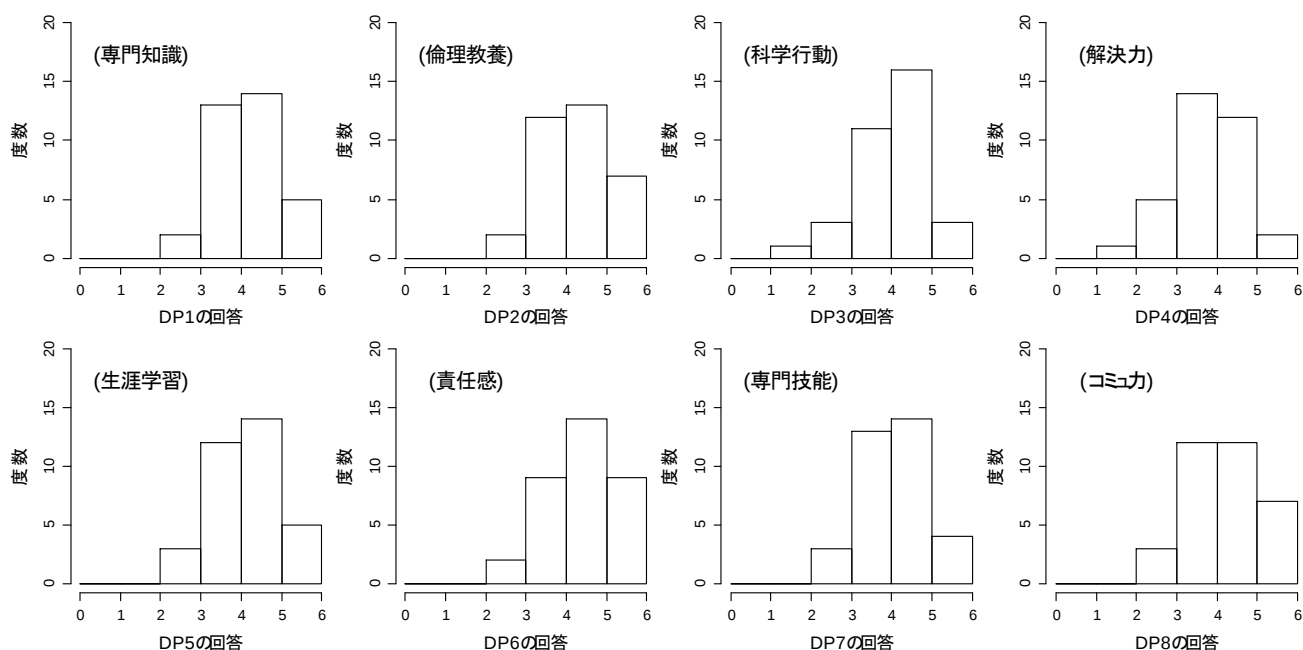


図 3-22. 医療経営情報学科の回答分布

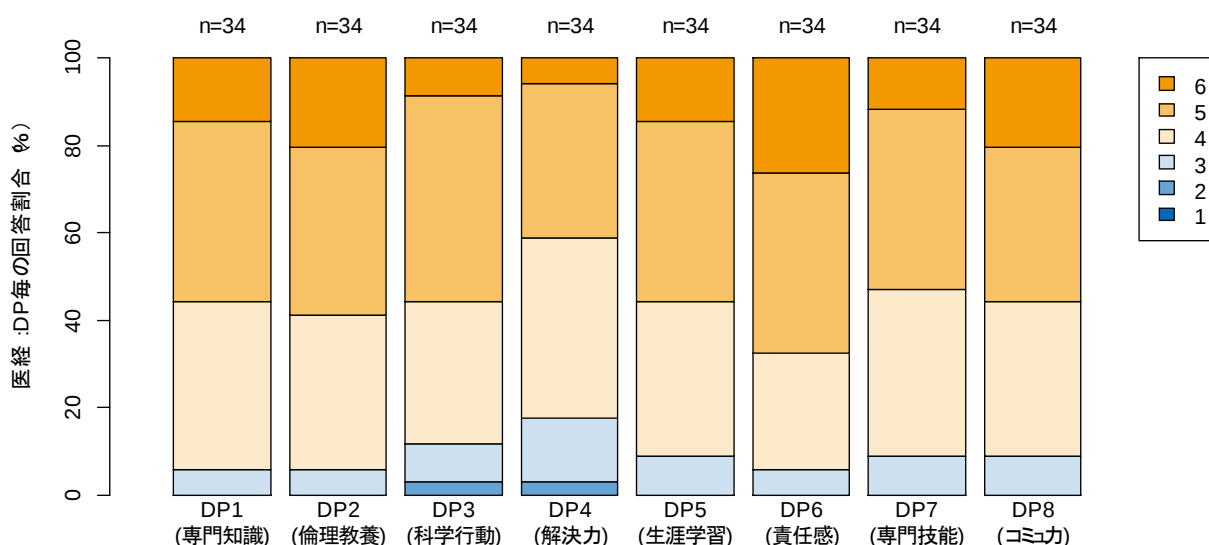


図 3-23. 医療経営情報学科の医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
自己評価結果 DP 毎の回答割合

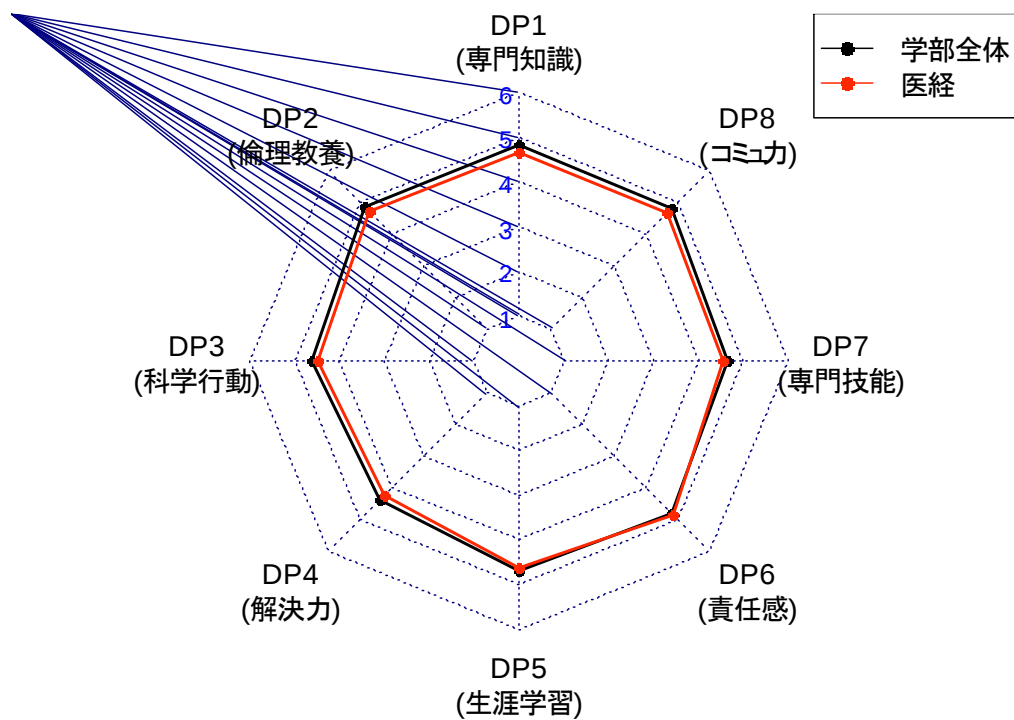


図 3 - 24. 回答結果の医療経営情報学科と学部全体との比較（平均値）

4. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度

4-1) アンケート調査方法

医療科学部の 2019 年度 4 年生を対象として、各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度を、学生自身に評価させるアンケート調査を実施した。アンケート調査法はマークシート式の調査票へ記入させる方式とし、学科ディプロマ・ポリシーの各項目を DP として、それに対する自らの到達度を 6 段階で自己評価させた。

達成度の 6 段階の評定尺度を表 4-1 に示す。

表 4-1. アンケート調査に用いた到達度の評定尺度 (6 段階)

6 : 完全に修得できた
5 : 概ね修得できた
4 : 最低水準は修得できた
3 : ある程度修得したが、最低水準には届かない
2 : 十分に修得できていない
1 : 全く修得できていない

アンケート調査は、2019 年度 4 年生が卒業する前の 2019 年 1 月～2 月中に各学科の事情に合わせ、学生に対して一斉に記入させることが可能な日程にて実施した。

4-2) 各学科の調査概要、調査結果および到達度の分析

4-2-1) 臨床検査学科

アンケート調査項目 (臨床検査学科ディプロマ・ポリシー) を表 4-2 に示す。

2019 年度臨床検査学科 4 年生を対象とした臨床検査学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価について、DP1～DP7 に対する評定尺度毎の回答結果 (卒業生 113 名中 113 件 : 回収率 100%) のヒストグラムを図 4-1 に示す。各 DP に対する回答の割合を図 4-2 に示す。

アンケート回答結果について、簡便に 6 段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、DP ごとの平均値、標本標準偏差、中央値、最大値、最小値を表 4-3 に示す。DP1～DP7 について、回答された評定値の平均値をレーダーチャートとして図 4-3 に示す。

2019 年度臨床検査学科 4 年の臨床検査学科ディプロマ・ポリシーに対する自己評価は、DP1～DP7 のいずれも評定値の平均値は「4 : 最低水準は修得できた」以上の回答が得られた。また中央値も、DP4 (地域貢献) および DP6 (国際探求) では「4 : 最低水準は修得できた」であったが、それ以外の DP では「5 : 概ね修得できた」となっており、学科ディプロマ・ポリシーはすべて最低限達成できている状況であった。

DP1 (知識技能)、DP2 (倫理責任)、DP3 (チーム医療)、DP5 (生涯学習)、DP7 (判断解決) についての回答は、「5 : 概ね修得できた」以上を回答した学生の割合は 60%以上を超えており、「5 : 概ね修得できた」と回答した学生が最も多かった。しかし今年度は、これら 5 つの項目で「4 : 最低水準は修得できた」より低く自己評価した学生も見受けられた。DP4 (地

域貢献) および DP6 (国際探求) については「4: 最低水準は修得できた」～「6: 完全に修得できた」と回答した学生の割合が他の DP と比べ低い傾向にあり、他の DP より平均点が低い傾向にあった。地域社会と連携した医療福祉の実践と貢献に関する自己評価が低かったことは、臨床検査技師と地域医療の関係性について十分な教育がされていないことを反映しており、今後、DP4 が「5: 概ね修得できた」以上と回答できる学生を増加させるために、臨床検査技師の地域医療に対する貢献を各専門科目の中で理解させることや、これを理解させるための新しいカリキュラムを構築する必要がある。DP6 の国際的探求心を持ってグローバルに活躍する意思と積極性の自己評価が低かったことから、学生の研究的向上心を伸ばし、国際的に活躍することが可能な教育内容についても検討していく必要がある。さらに、実習および演習等において課題に対する個々の学生の姿勢や学修状況を把握し、達成度の低い学生に対して課題等のフィードバックを強化することにより、到達度を上げることも重要である。また、新カリキュラムにおいて卒業研究期間の延長をさせることで、本学科の研究的探求心を向上させることも必要である。

大学教育のグローバル化および高度化・多様化する医療・社会のニーズに対応し、異分野でも活躍できる臨床検査技師の育成を目指すために、教育の質の向上やカリキュラムの再編を図る必要がある。

表 4-2. アンケート調査の DP 項目 (臨床検査学科ディプロマ・ポリシー)

DP1 (知識技能)	幅広い教養を身に付け、臨床検査を実践するために必要な知識と技能が身につきましたか。
DP2 (倫理責任)	生命の尊さを深く認識し、医療人として高い倫理感と強い責任感を有し、謙虚で誠実に医療を実践することができるようになりましたか。
DP3 (チーム医療)	医療職種の専門性および役割を理解し、チーム医療の一員としての自覚を有し、患者中心の専門職連携を実践することができるようになりましたか。
DP4 (地域貢献)	地域医療の重要性を理解し、医学・臨床検査学を通じて地域社会と連携した医療・福祉を実践し、地域社会に貢献することができるようになりましたか。
DP5 (生涯学習)	常に進歩し続ける医学・臨床検査に関心を有し、生涯にわたり自ら成長することができるようになりましたか。
DP6 (国際探求)	研究的探究心を失うことなく、常に向上心をもち、グローバルに活躍する意志と積極性が身につきましたか。
DP7 (判断解決)	科学的根拠に基づき、様々な医学・臨床検査学に関する問題や課題の解決に向けた思考や判断能力が身につきましたか。

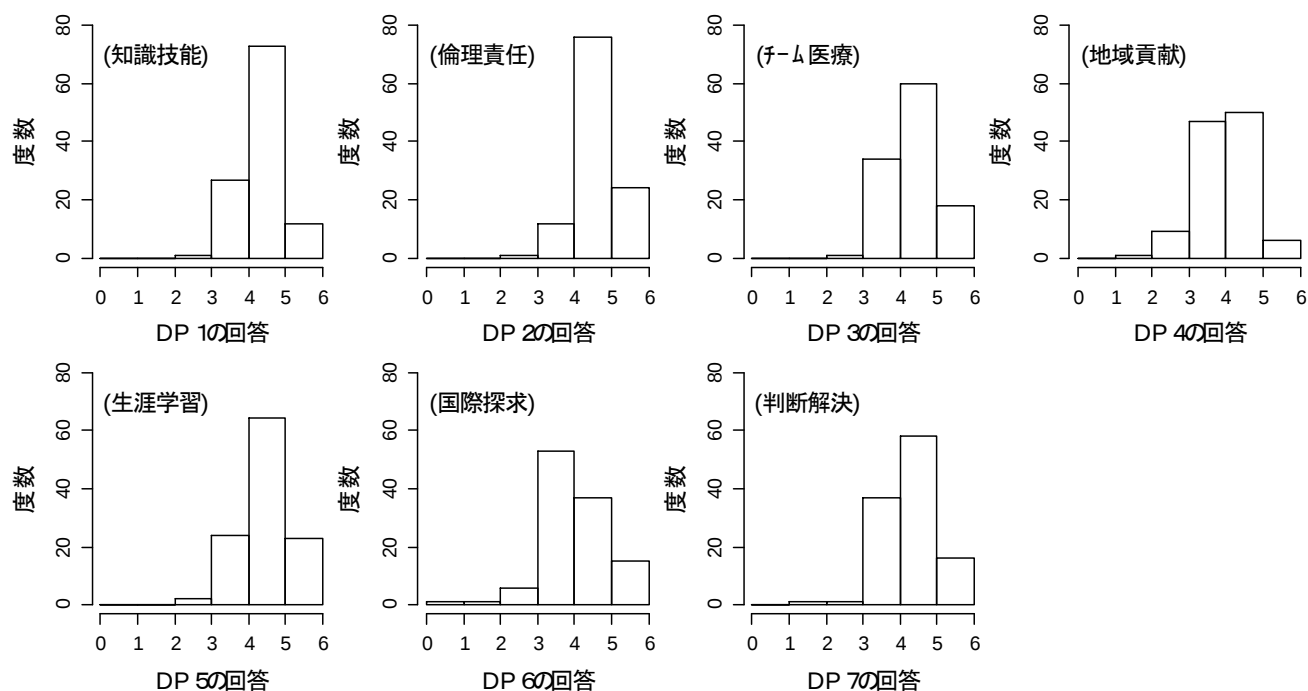


図４－１．臨床検査学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 回答分布

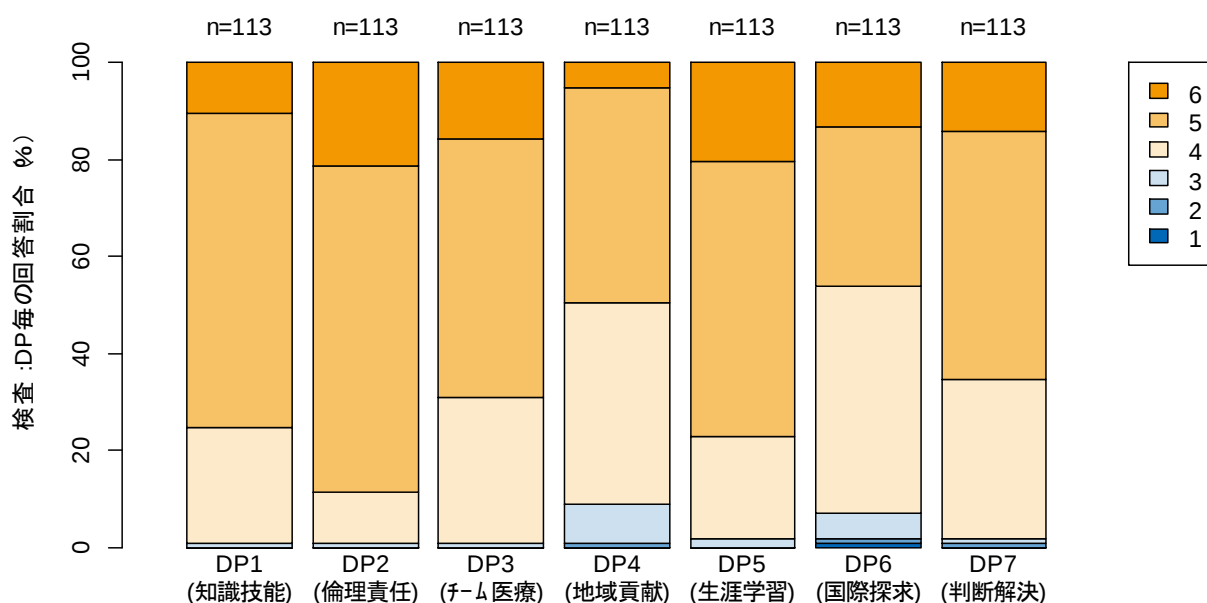


図４－２．臨床検査学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 DP 毎の回答割合

表４－３．臨床検査学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 基本統計量

検査	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
平均値	4.85	5.09	4.84	4.45	4.96	4.50	4.77
標本SD	0.60	0.59	0.68	0.75	0.69	0.88	0.73
中央値	5	5	5	4	5	4	5
最大値	6	6	6	6	6	6	6
最小値	3	3	3	2	3	1	2
n	113	113	113	113	113	113	113

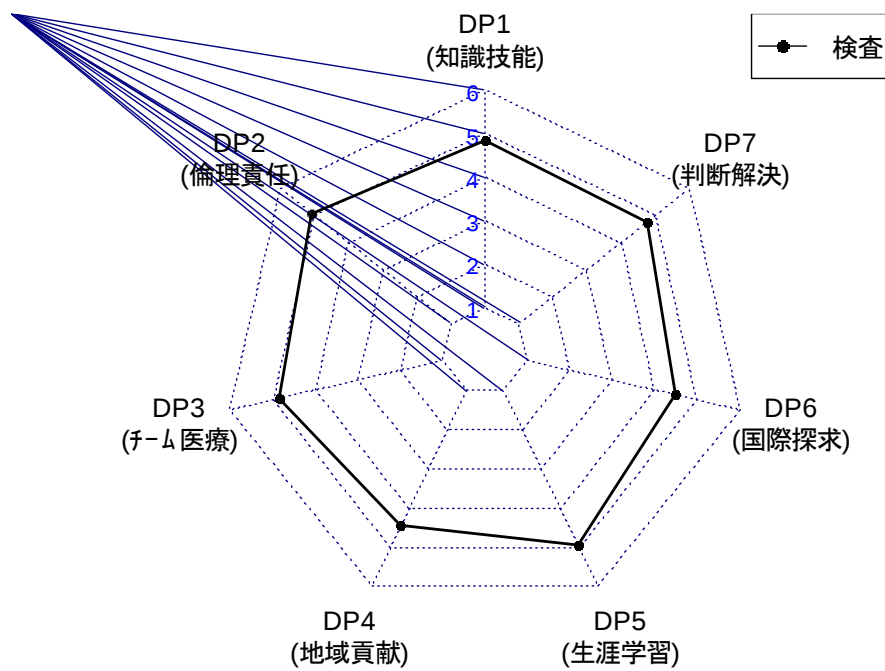


図 4－3．臨床検査学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 評価値の平均値

4-2-2) 放射線学科

アンケート調査項目（放射線学科ディプロマ・ポリシー）を表4-4に示す。

2019 年度放射線学科4年生を対象とした放射線学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価について、DP1～DP5 に対する評定尺度毎の回答結果（卒業生 63 名中 63 件：回収率 100%）のヒストグラムを図4-4に示す。各 DP に対する回答の割合を図4-5に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、DP ごとの平均値、標本標準偏差、中央値、最大値、最小値を表4-5に示す。DP1～DP5 について、回答された評定値の平均値をレーダーチャートとして図4-6に示す。

表4-5の結果より、すべての DP の中央値が「5：概ね修得できた」を示していることから、学科ディプロマ・ポリシーは最低限達成できている状況と判断できる。また、DP1(倫理態度)については最小値が「4：最低水準は修得できた」であることから学科全学生は医療専門職としての素養を養えることができたと評価したことが伺える。DP2(チーム医療)の回答については、DP1(倫理態度)とほぼ同等の分布を示しており「5：概ね修得できた」の回答が「4：最低水準は修得できた」を上回っている。一方、少数が「3：ある程度修得したが、最低水準には届かない」を回答しているためコミュニケーションが不得手である学生に対して実験・実習・TBL・PBLを通して能力が向上するように班分けなどで段階的に学修環境を調整しながら助力していく必要がある。項目 DP3(知能技術)、DP4(判断解決)、DP5(国際探求)の回答については、「4：最低水準は修得できた」が最も高い分布を示している。

3項目のうちDP3(知能技術)で最も高い平均値を示していることから現状における本学科の特色は学生に高度な知識と技術を修得させる教育といえる。しかし、少数が「3：ある程度修得したが、最低水準には届かない」を回答しているため成績不良者への国家試験対策および学生数の増加にともなう教育の質の低下を防止するための検討をしていく必要がある。

DP4(判断解決)については2019年度からPBLがカリキュラムに組み込まれたことにより学生が自ら考え問題解決する機会が増えたため専門知識を利用した論理的思考が身についたと認識する学生が増加したと判断できる。昨年と比較して「2：十分に修得できていない」を回答する学生が無くなり、「3：ある程度修得したが、最低水準には届かない」を回答する学生数も減少した。今後は、PBLの内容や課題が充実していくため評価の向上が期待できる。DP5(国際探求)については卒業研究に取り組む姿勢に個人差があることや、本学科が留学生の交換をまだ本格的に行っていないことも原因として考えられ、今後は卒業研究の指導強化やグローバル化を推進する必要がある。

表 4－4．アンケート調査の DP 項目（放射線学科ディプロマ・ポリシー）

DP1 (倫理態度)	医療専門職に相応しい倫理観や他者を思いやる心遣いや礼節を身につけることができましたか。
DP2 (チーム医療)	チーム医療の一員として他の医療専門職と協働して医療を担う責任感と協調性、優れたコミュニケーション能力が身につきましたか。
DP3 (知識技能)	診療放射線技師が担う診療画像検査業務および画像診断支援業務、放射線治療支援業務、放射線管理業務に幅広く対応できる高度な知識と技術が身につきましたか。
DP4 (判断解決)	診療放射線技術科学に関する論理的な課題解決思考をもち、卓越した専門性を発揮して放射線関連業務に携わることができるようになりましたか。
DP5 (国際探求)	医療科学における真理の探求心と創造力を兼ね備え、診療放射線技術学に関する国際的視野が身につきましたか。

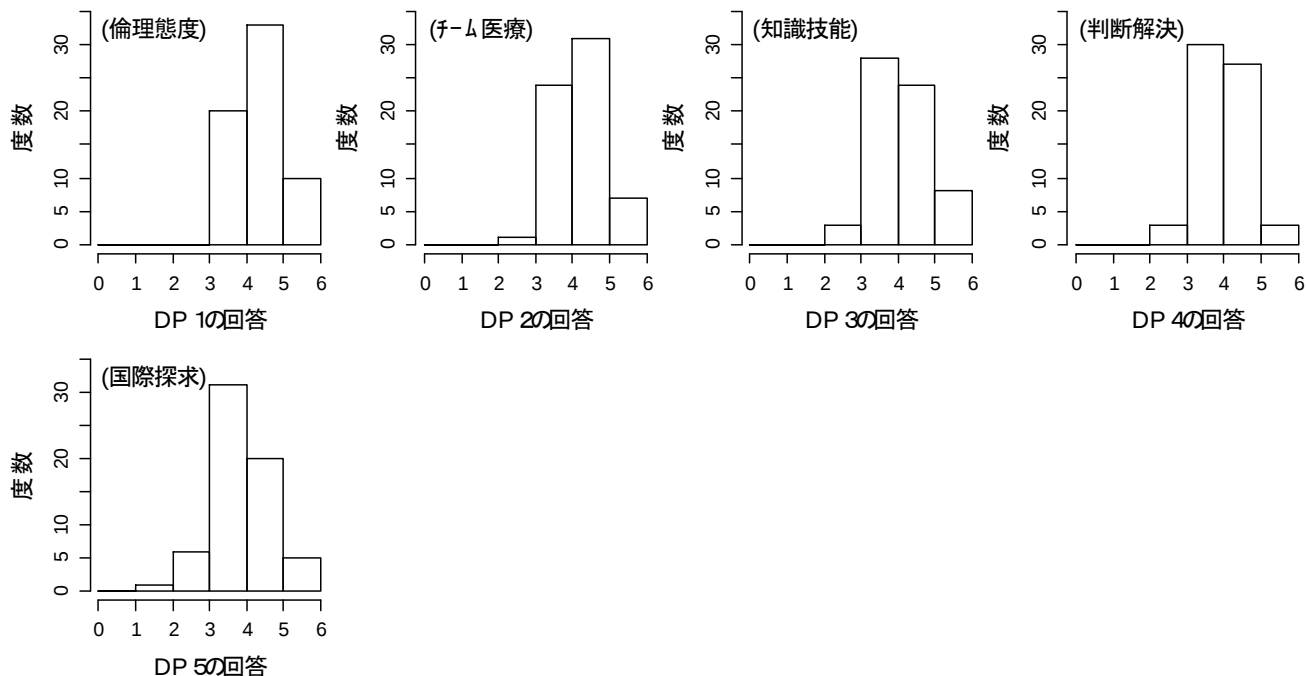


図 4－4．放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 回答分布

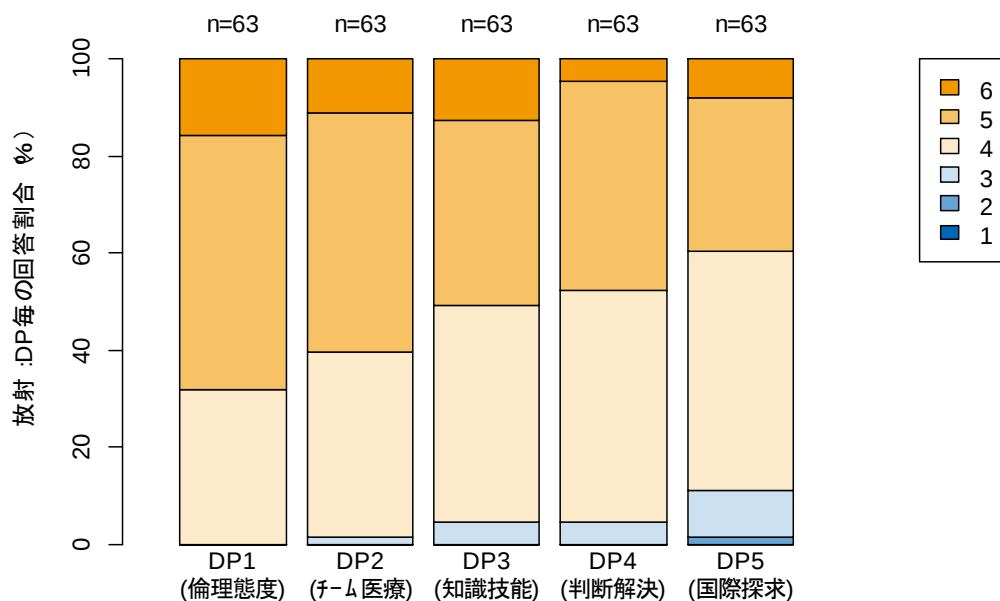


図 4－5．放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 DP 毎の回答割合

表 4－5．放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 基本統計量

放射	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
平均値	4.84	4.70	4.59	4.48	4.35
標本SD	0.67	0.68	0.76	0.66	0.81
中央値	5	5	5	4	4
最大値	6	6	6	6	6
最小値	4	3	3	3	2
n	63	63	63	63	63

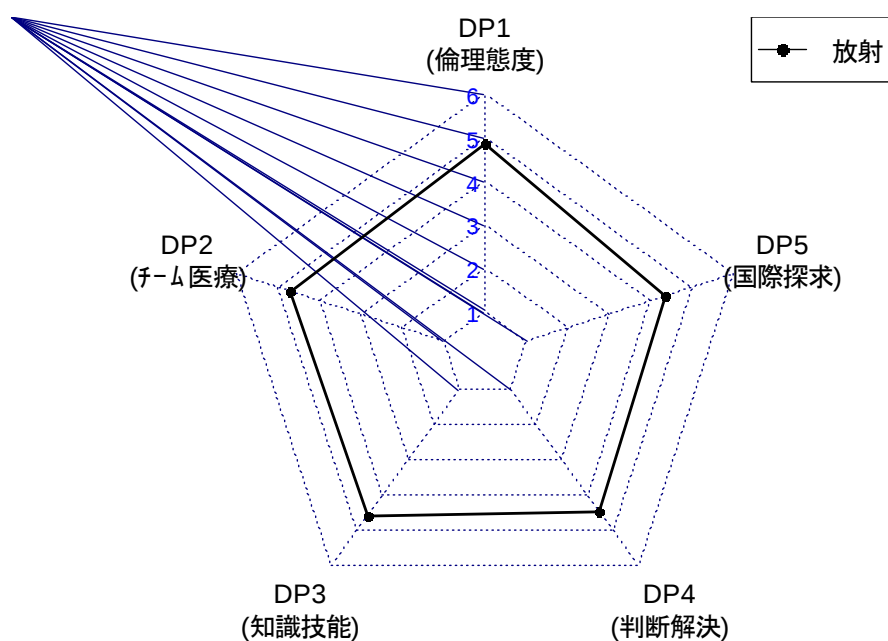


図 4－6．放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 評定値の平均値

4-2-3) 臨床工学科

アンケート調査項目（臨床工学科ディプロマ・ポリシー）を表4-6に示す。

2019年度臨床工学科4年生を対象とした臨床工学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価について、DP1～DP5に対する評定尺度毎の回答結果（卒業生53名中53件：回収率100%）のヒストグラムを図4-7に示す。各DPに対する回答の割合を図4-8に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、DPごとの平均値、標本標準偏差、中央値、最大値、最小値を表4-7に示す。DP1～DP5について、回答された評定値の平均値をレーダーチャートとして図4-9に示す。

2019年度臨床工学科4年生の臨床工学科ディプロマ・ポリシーに対する自己評価は、DP1～DP5のいずれも評定値の平均値が「4：最低水準は修得できた」～「5：概ね修得できた」であった。中央値は「5：概ね修得できた」を示し、また、どのDPも「5：概ね修得できた」の回答数が40%程度を占めた。学科ディプロマ・ポリシーはほぼ達成できている状況であった。

DP3（生涯学習）およびDP4（チーム医療）の回答は、他のDP項目に比べ「6：完全に修得できた」の度数が高かった。DP2（医工統合）では、「6：完全に修得できた」の度数が最も低かった。DP1（知識技能）、DP2（医工統合）やDP6（地域貢献）では、「4：最低水準は修得できた」と回答する学生が他の項目に比較して多かった。これを「5：概ね修得できた」へと回答できるように今後教育内容を検討していく必要がある。具体的には、臨床工学技士国家試験の受験に必要な基礎的知識・技術が備わっていることを客観的に示す指標の提示や臨床実習をとおして診療における臨床工学技士の活躍が実感できるような工夫を検討・実行し、医療による社会貢献の姿勢を思い描けるよう模索したいと考える。そのために、卒業研究では臨床の研究題材を用いたり、関連する国内学会等へ参加して国内外での臨床工学技士の医療支援活動や研究活動を聴講するなど、機会を与えていきたい。

表4-6. アンケート調査のDP項目（臨床工学科ディプロマ・ポリシー）

DP1 (知識技能)	臨床工学技術領域に従事するための基本的な知識・技能が身につきましたか。
DP2 (医工統合)	安全な医療を行うために医学知識と工学知識が統合できていますか。
DP3 (生涯学習)	常に向上心を持ち生涯学び続ける事の大切さが理解できていますか。
DP4 (チーム医療)	高い倫理観を基盤とした豊かな人間性を身につけ、他の医療職と協働してチーム医療に貢献しようとする意思をもっていますか。
DP5 (地域貢献)	臨床工学技士に相応しい高い専門性と研究能力を備えようとするとともに医学の進歩と地域・社会福祉の向上に貢献しようとする姿勢ができていますか。

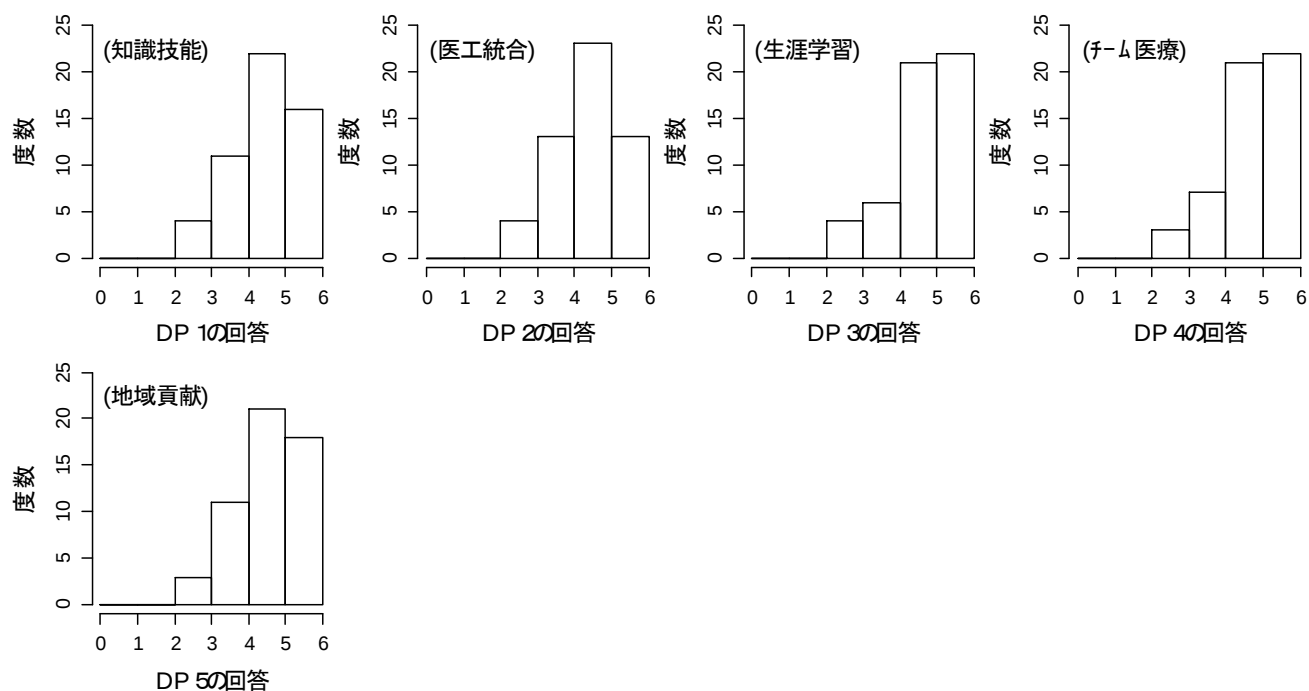


図 4-7. 臨床工学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 回答分布

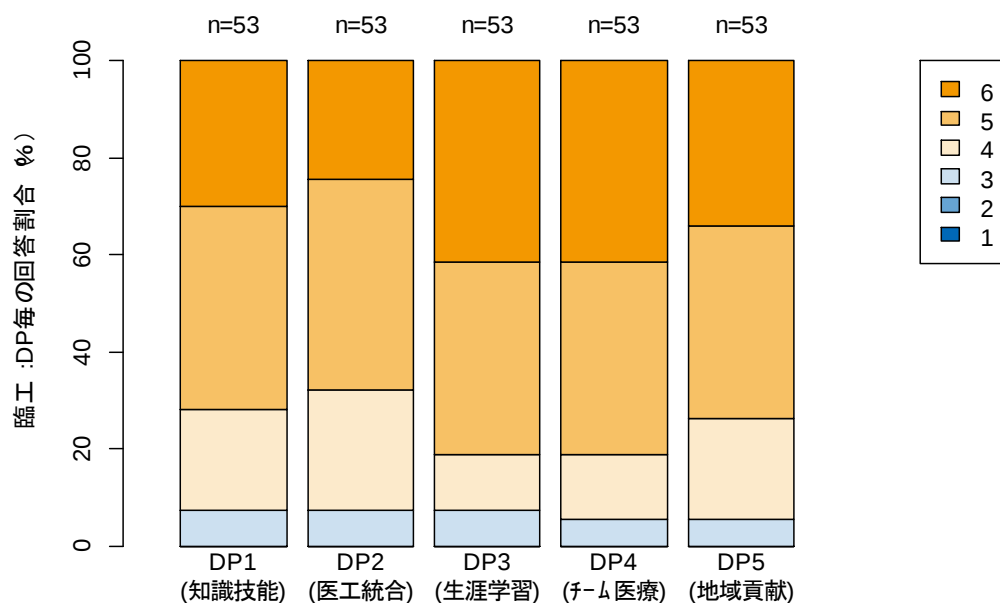


図 4-8. 臨床工学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 DP 毎の回答割合

表 4-7. 臨床工学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 基本統計量

臨床工	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
平均値	4.943	4.849	5.151	5.170	5.019
標本SD	0.890	0.869	0.890	0.855	0.871
中央値	5	5	5	5	5
最大値	6	6	6	6	6
最小値	3	3	3	3	3
n	53	53	53	53	53

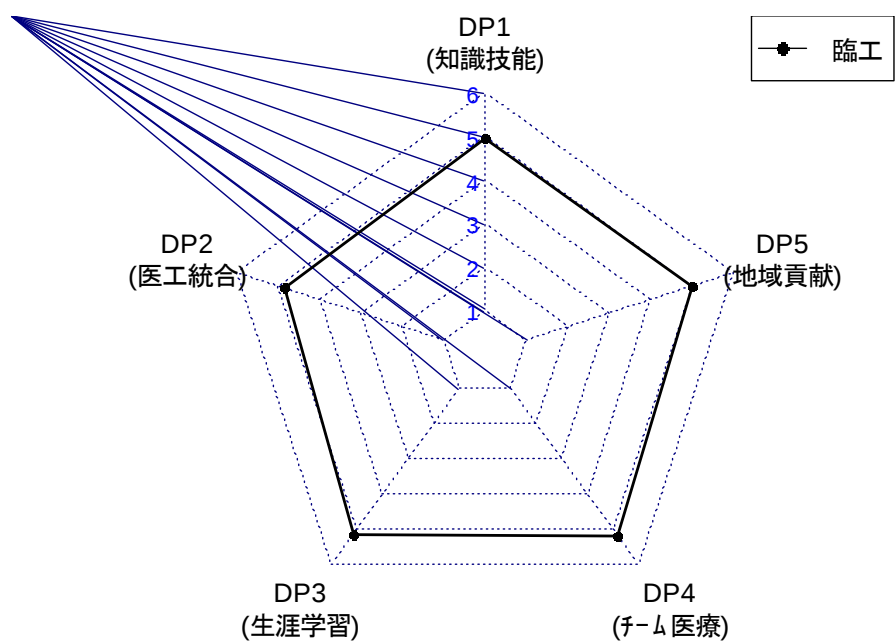


図 4－9．臨床工学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 評定値の平均値

4-2-4) 医療経営情報学科

アンケート調査項目（医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー）を表4-8に示す。

2019 年度医療経営情報学科4年生を対象とした医療経営情報学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価について、DP1～DP7 に対する評定尺度毎の回答結果（卒業生 34 名中 34 件：回収率 100%）のヒストグラムを図4-10に示す。各 DP に対する回答の割合を図4-11に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、DP ごとの平均値、標本標準偏差、中央値、最大値、最小値を表4-9に示す。DP1～DP7 について、回答された評定値の平均値をレーダーチャートとして図4-12に示す。

2019 年度医療経営情報学科4年生の医療経営情報学科ディプロマ・ポリシーに対する自己評価は、DP1～DP7 のいずれも評定値の平均値は「4：最低水準は修得できた」以上の回答が得られ、中央値も「4：最低水準は修得できた」、「5：概ね修得できた」を示しており、学科ディプロマ・ポリシーは達成できている状況であった。

今回、回答率は低いものの「2：十分に修得できていない」以下の回答があった項目が、DP1（分析管理）・DP4（診療報酬）・DP5（診療管理）・DP6（医療情報）・DP7（経営管理）となった。特に本学科の専門性を示す DP4～DP7 のうち、DP7（医療情報）については、「5：概ね修得できた」以上の回答率は他の項目とほぼ同様であるものの、「3：ある程度修得したが、最低水準には届かない」以下の回答率が高い傾向を示した。これは医療情報技師能力検定試験の合格率にも関連する傾向であり、情報系を苦手とする学生群とそうでない学生群が大きく分かれていることを示していると考えられる。医療情報系科目のカリキュラムや教授法の改善を今後も継続していく必要がある。また、DP4（診療報酬）も「3：ある程度修得したが、最低水準には届かない」以下の回答率が若干高くなっており、今後も診療報酬請求事務能力の資格取得率を向上させる対策を継続し、「6：完全に修得できた」の回答を増やしていく必要がある。

DP2（チーム医療）・DP5（診療管理）については「4：最低水準は修得できた」以上の回答の比率が高くなった。1年次の早期臨地体験実習、2年次の病院見学実習、3年次の診療情報管理実習、4年次の臨地実習と豊富に設定した医療現場における実習教育や診療情報管理士対策のチュートリアル教育を通じたコミュニケーション力の醸成、診療情報管理士認定試験の合格率 100%の自信が反映されている結果と考えられる。

表 4－8. アンケート調査の DP 項目（医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー）

DP1 (分析管理)	医療の質向上に貢献することができる情報分析能力やマネジメント能力が身につきましたか。
DP2 (チーム医療)	医療人としてふさわしい高い倫理観を身につけ、チーム医療の一員として問題解決にあたるためのコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身につきましたか。
DP3 (生涯学習)	社会の変化や医療の進歩に対応して自らの専門性を発揮できるよう生涯学習を続ける意欲が身につきましたか。
DP4 (診療報酬)	診療報酬請求事務に関する知識と基礎的能力が身につきましたか。
DP5 (診療管理)	診療情報管理士認定試験に合格できる知識と技能の水準に達しましたか。
DP6 (医療情報)	医療情報技師能力検定試験に合格できる知識と技能の水準に達しましたか。
DP7 (経営管理)	経営・管理に関する知識を医療に応用する基礎的能力が身につきましたか。

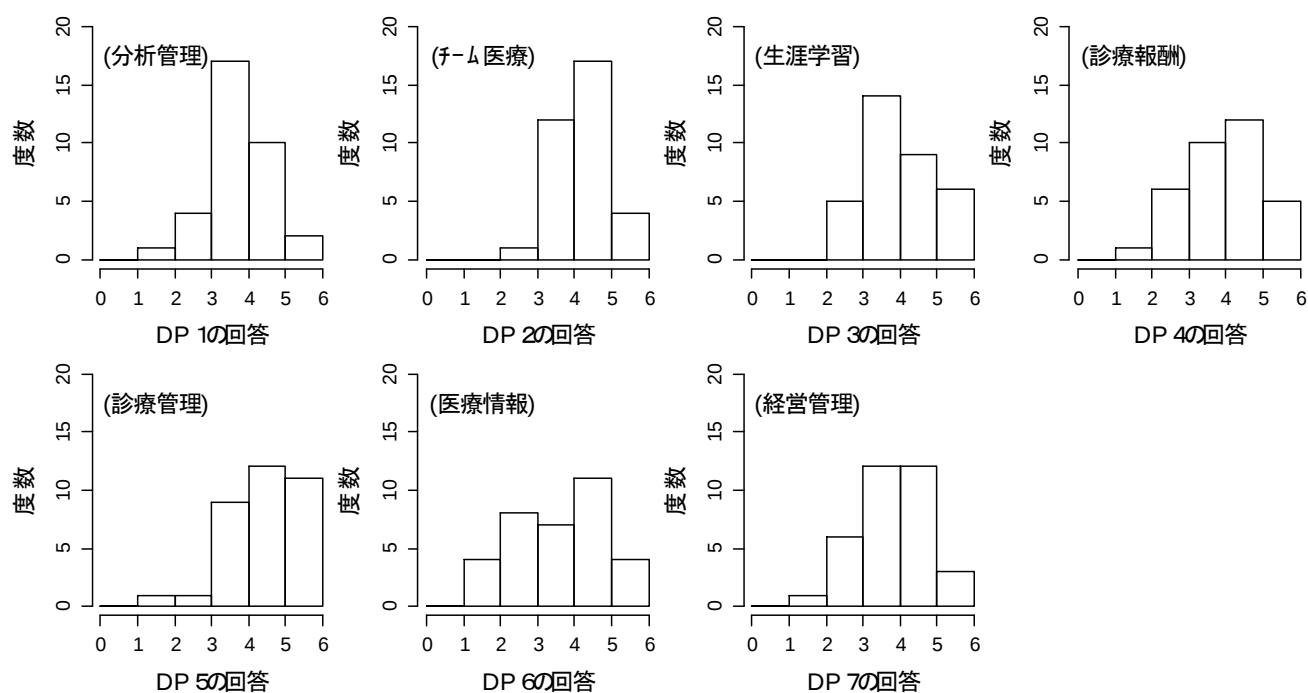


図 4－10. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 回答分布

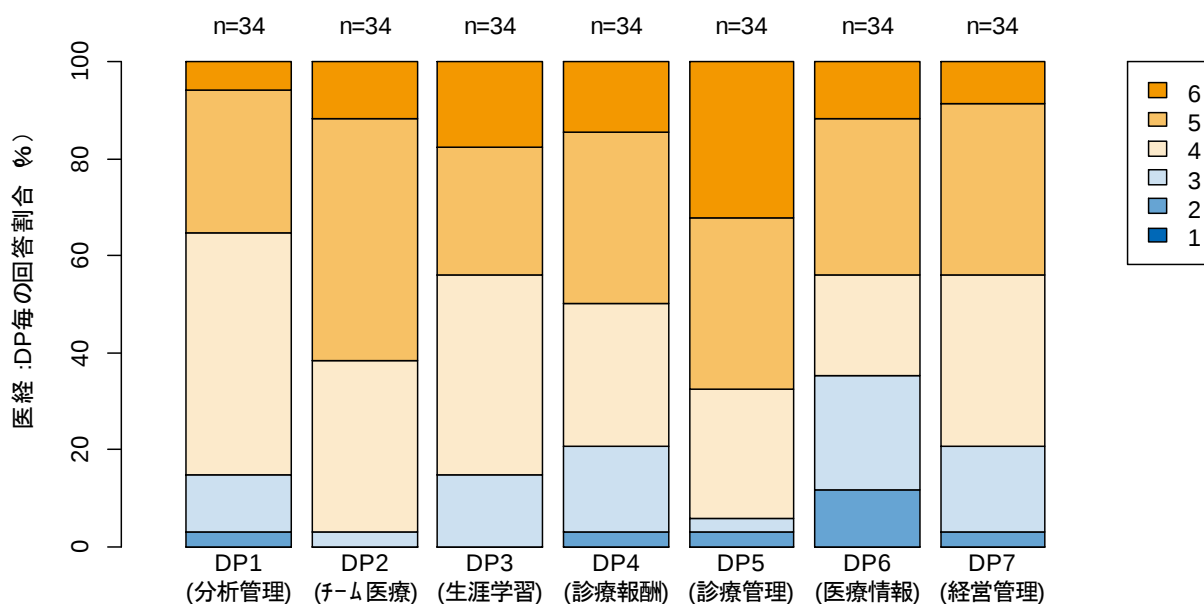


図 4-11. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 DP 毎の回答割合

表 4-9. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 基本統計量

医経	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
平均値	4.24	4.71	4.47	4.41	4.91	4.09	4.29
標本SD	0.83	0.70	0.93	1.02	0.97	1.20	0.94
中央値	4	5	4	4.5	5	4	4
最大値	6	6	6	6	6	6	6
最小値	2	3	3	2	2	2	2
n	34	34	34	34	34	34	34

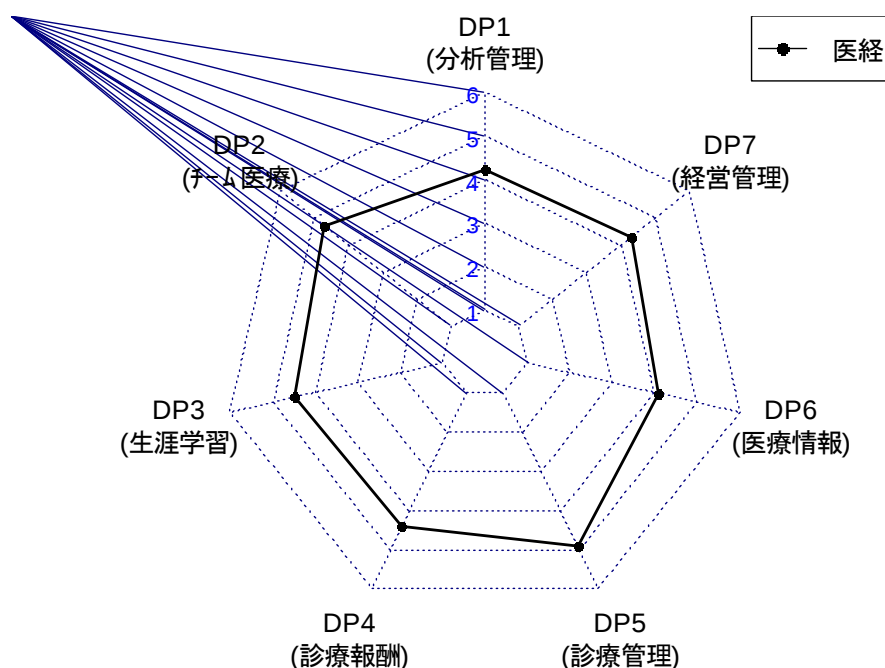


図 4-12. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 評定値の平均値